

# Digi-Wave™ 300 シリーズ

DLT 300 デジタル送受信ユニット & DLR 360 デジタル受信ユニット

ユーザーマニュアル



DLT 300



DLR 360

2018年1月(2)

## 目次

安全上の警告、及びリサイクルについて .....	3
システム概要.....	5
DLT 300 各部の名称.....	8
DLT 300 の操作.....	8
DLR 360 各部の名称 .....	11
DLR 360 の操作.....	11
はじめに：プログラム済みのシステム.....	13
Digi-wave システム設定のしくみ.....	15
Digi-Wave システムを 1-way 用途に設定する.....	19
Digi-Wave システムを 2-way 用途に設定する.....	21
Digi-Wave システムの設定：オプション設定.....	23
構成例 1：ツア－ガイド（2-way 用途、2-way モード） .....	27
構成例 2：同時通訳（1-way 用途）.....	30
構成例 3：バイリンガルモード.....	33
構成例 4：リレーモードでの通訳.....	38
構成例 5：インターカム(2-way 用途、最大 6 人までの同時通話) .....	44
構成例 6：リピーターモード（1-way 用途） .....	47
DLT300、DLT100 2.0、DLT100 の相違表 .....	50
DLR360、DLR60 2.0、DLR60 の相違表 .....	51
DLT100、DLT100 2.0、DLT300 のファームウェアバージョンの相違表.....	51
仕様 .....	52
検査と認証 .....	55
トラブルシューティング.....	55
よくあるご質問.....	56
FCC ステートメント.....	57
2 年保証.....	59

## 安全上の警告、及びリサイクルについて

### 聴覚の安全について

#### 注意

本製品は高い音量レベルに音を増幅するように設計されており、適切に使用されない場合、聴覚障害の原因となる可能性があります。聴覚を保護するため、以下の点を守ってご使用ください。

- (1) ボリュームを下げておいてからイヤホンやヘッドホンを着用し、その後快適なレベルにボリュームを調整してください。
- (2) 必要以上に大きなレベルに音量を設定せず、必要最低限の音量に設定してください。
- (3) キーンという音やハウリング音などのフィードバックがある場合、音量を下げ、マイクをイヤホンやヘッドホンから遠ざけてください。
- (4) 子供、及びこの製品を適切に使用することが出来ない可能性のある方には操作させないでください。

### 医療機器の安全性について

#### 注意

- (1) 埋め込み型の医療器具または他の医療機器と一緒に本製品を使用する前に、かかりつけの医師や医療機器メーカーに相談してください。
- (2) あなたがペースメーカーや他の医療機器を使用している場合は、かかりつけの医師および医療機器メーカーによる安全性のガイドラインに基づき本製品が使用できることを確認してください。

### 充電電池の安全性について

#### DLT 300 に内蔵の充電電池（バッテリーパック）について

#### 注意

開けたり、分解または充電電池を修理したりしないでください。火災や火傷の恐れがあります。粉碎したり、尖ったもので穴をあけたり、ショートさせたり、火や水の中に投げたりしないでください。焼却または（60℃）以上の温度にさらさないでください。この製品専用の充電電池のみと交換してください。充電電池は充電式リチウムポリマーバッテリー（Li-Po）です。リサイクルするか、お住まいの地域の規定に従って適切に処分してください。

#### 注意

DLT で使用されるリチウム充電電池は、優れた性能と長寿命を提供します。しかし、他のすべてのリチウム充電電池同様、充電/放電サイクルの回数には限度があります。リチウム充電電池は、その想定されるライフサイクル（2年）を超えて使用する場合に膨らみが発生することがあります。充電電池の膨らみに気づいた場合は、使用を中止し充電電池を交換してください。2年に1度の頻度で充電電池を交換することをお勧めします。充電電池の交換の詳細については、Williams Sound 社のウェブサイトをご覧ください：<http://www.williamssound.com/digiwave-battery-replacement>

## リサイクルについて



### 充電電池の廃棄について

Williams Sound 社は地球環境の保護に力を入れています。機器の処分にはお手数でも、正しい処理を行ってください。充電電池は家庭ごみとして廃棄せず、地域の回収場所やリサイクル活動を行っている小売店に依頼し、リサイクルするようお願いいたします。

ウィリアムズ・サウンド機器を家庭ごみの中に廃棄しないでください。適切な廃棄のために、機器を電子機器リサイクルセンターに持ち込むか、工場に返送してください。

## システム概要

Digi-wave™ システムはデジタルスペクトラム拡散 (DSS) の特許技術を用いた同時双方向通話ができる 2.4GHz 帯ワイヤレスリスニングシステムです。周波数ホッピングのアルゴリズムにより電波干渉を回避し、通信の秘匿性に優れています。Digi-wave テクノロジーの仕組みの詳細については、当社の Web サイトにアクセスし、「Digi-wave™ Technology White Paper」(「サポート - ダウンロード - 技術情報」と進んだ先) をダウンロードしてください。

Digi-wave システムには以下 2 種類のユニットがあります。

**DLT 300** : Digi-wave300 シリーズ 送受信ユニット

**DLR 360** : Digi-wave300 シリーズ 受信専用ユニット

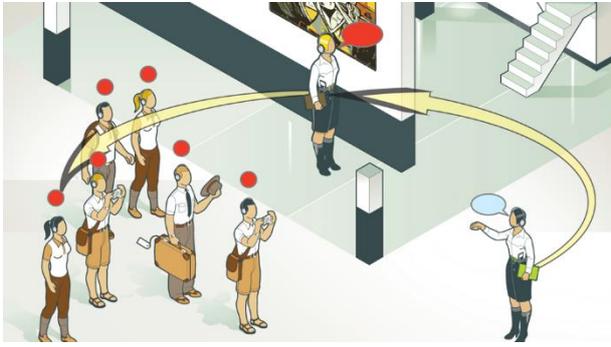
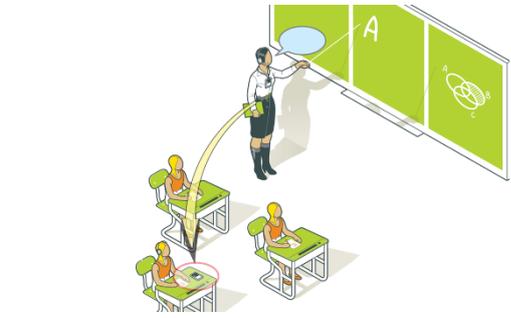
Digi-Wave のシステムは最低 1 台以上の DLT300、および場合によって 1 台以上の DLR360 を組み合わせて構成します。

DLT300 は双方向 (2way) 通話のできるユニットです。つまり、音声の送信と受信を同時に行うことができます。システムの構成のしかたによって様々な用途に使用できます。大きく分けて、1-way (片方向通話) の用途と 2-way (双方向通話) の用途があります。さらに、DLT300 にはそれぞれの用途に応じた複数のモードが用意されています。

1. 2-Way モードでは、DLT300 を所持する話者は別の話者の音声を二つ目の DLT300 から聞くことができ、同時に自分の声を送信することもできます。このようにして、電話での会話と同様の双方向通信が確立されます。2-Way モードは、DLT 300 ユニット間でのみ確立できます。さらに、同じグループの DLR 360 受信者はブロードキャストを聞くこともできます。
2. 1-Way モードでは、1 つの DLT300 が送信機 (話者) として機能し、別の DLT300 が受信機 (聞き手) として機能します。さらに、同じグループの DLR 360 受信者もブロードキャストを聞くことができます。4 つの 1-Way モードがあります。
3. リピーターモードでは、DLT300 は別の DLT300 からオーディオを受信し、その信号を再ブロードキャストして、話者の送信範囲を増加させます。このように、1 つ以上の DLT 300 をリピーターとして使用することで、より大きなグループをカバーすることができます。聞き手は、DLT 300 または DLR 360 のいずれかを使用して、ブロードキャストを聴くことができます。リピーター機能は 1-Way モードでのみ動作します。2-Way シナリオでは利用できません。
4. 2-way インターカムモードでは、最大 6 人まで同時に話すことができます。すべての DLT 300 は同じグループ内で 2-Way モードとなります。さらに多くの DLT がグループに参加することができますが、同時にライブマイクを持つことができるのは最大 6 つまでです (話したい 7 つ目の DLT はトークボタンを押して、6 番目の話者をオフにします)。DLR は必要に応じて会話を聞くことができます。

1-way モード、2-way モード、またはリピーターモードで、1 つまたは複数の DLT 300 と DLR 360 の組み合わせを使用して、何が話される必要があるか、何が聞こえる必要があるかに応じて、さまざまなイベントを円滑に運営することができます。シナリオの例については、ここで説明します。

**1-way 用途 :**

ツアーガイド (および簡易通訳付きツアーガイド)	
<p>日本語のガイドからの音声を通訳が英語に翻訳し、観光客が英語に翻訳されたガイドを聞く</p> 	<p>日本語のガイドからの音声を通訳が英語に翻訳し、観光客は日本語・英語のいずれか好きな言語を聞く</p> 
授業での音声補助	会議での音声補助
<p>先生の声を席の離れた生徒が聞く</p> 	<p>会議で席の離れた発言者の声を特定の参加者が聞く</p> 

**2-way 用途 :**

質疑応答のあるツアーガイド・複数名のガイド	複数教師による授業の音声補助
<p>複数のガイドと観光客の数名が会話し、ほかの観光客はその会話を聞く</p> 	<p>複数教師が会話をするように発言し、生徒はその会話を聞く、もしくは質問をする</p> 
ワイヤレスインターカム	
<p>撮影現場、イベント会場、車両整備場等に手軽なワイヤレスインターカムとして使用できます。高音質の完全同時双方向通話が可能です。最大同時 6 人が発言可能です。(発言グループへの参加人数は無制限)</p>	

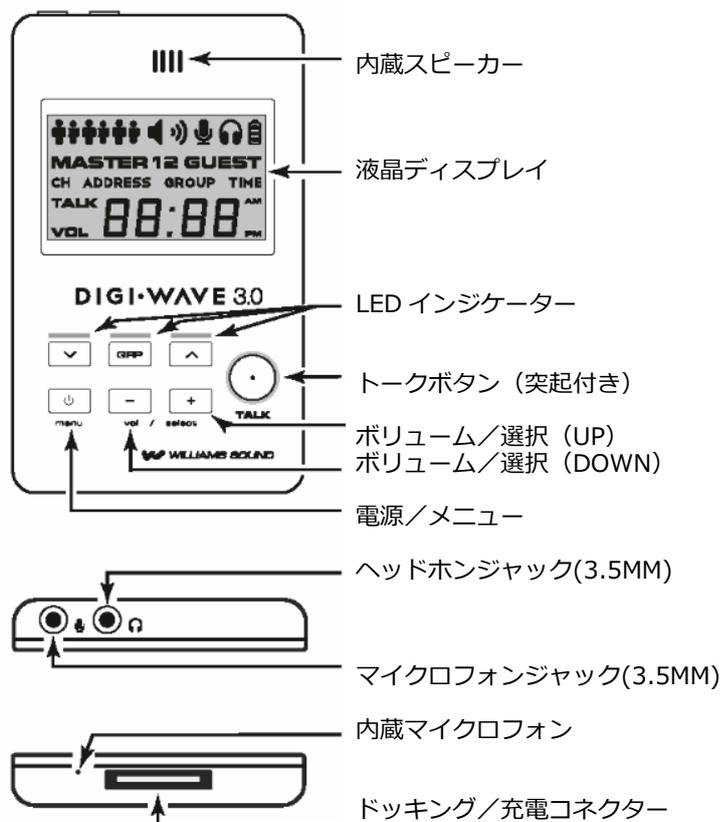


図に示されたシナリオ以外にも、もっとたくさんのシナリオが存在するでしょう。しかしそれらはすべていずれかのシナリオのバリエーションです。1way 用途、2way 用途の各モードのルールをしっかりと知っていただくことで、他の使い方も成功させることができます。

※以降、当マニュアルにおいて、DLT 300 は「DLT」、DLR 360 は「DLR」、Master1・Master2 を「M1」・「M2」、ゲストを「Guest (あるいは GST)」と表記します。

※Digi-Wave300 シリーズは、以前に発売されていた Digi-wave 製品\*との下位互換性がありません。(\*日本では発売なし)

## DLT 300 各部の名称



## DLT 300 の操作

### ボタン操作

#### 電源/メニューボタン



- ・ 長押しして電源の ON/OFF ができます
- ・ 短く押すことで設定メニュー内では次のセクションへの移動を行います
- ・ 設定情報の確認に使用できます (繰り返し押すことで次の設定に進みます)
- ・ Master ユニットのみの、Menu ボタンを押して離すと、参加者の数が 2 秒間表示されます。参加者数 (接続している DLT の数) のチェックができます。参加者数チェック機能を使用するには、1 から 99 のアドレスが各ユニットに割り当てられている必要があります。

#### クイックグループチェンジ/設定ボタン (グループ変更は 2way モード時のみ有効)



- ・ 上  と下  ボタンを同時に 3 秒間長押しして設定メニューへ進みます
- ・ GRP ボタンを 3 秒間長押しして**クイックグループチェンジモード**になります。GRP のライトが点灯します。上もしくは下ボタンを押してグループを変更します。GRP  ボタンをもう一度押すか、しばらく放っておくとこのモードから抜けられます。これらのボタンは同時通訳モードでのチャンネル選択にも使用します。

マイクロフォンレベル調節この設定は、(1) 内蔵マイクまたは (2) マイクジャックに差し込まれた外部マイクの入力レベルを調整します。

- ・ 下ボタン  を 2 秒長押ししてマイクレベル調節に進みます。+ - のボタンを押してレベルを調節します。下ボタン  を 2 秒長押ししてマイクレベル調節を保存します。

### ラインレベル調整

この設定は、DLT の 30 ピンコネクタの入力レベルを調整するもので、ユニットが Digi-Wave Dock にドッキングされている場合に適用されます。リアドック入力ジャックからのオーディオレベルを DLT で調整してから送信することができます。(1) オーディオが低すぎるか、(2) 高すぎるためにレシーバー（またはトランシーバー）で聞くと歪む場合、この調整が必要なほとんどのケースです。

- ・ 上ボタン  を 2 秒長押ししてレベル調節に進みます。+ - のボタンを押してレベルを調節します。

### トーン調整

- ・ + - ボタンを同時に 2 秒間長押しします。LCD ディスプレイに最後に設定したトーンが t:(1-9)の形で表示されます。
- ・ + - ボタンを使って、トーンを調整します。1 = 最も低音 5 = フラット（既定） 9 = 最も高音 となっています。
- ・ - と + ボタンを同時に 2 秒間長押し、トーン設定を保存します。

### ボリュームコントロール/選択ボタン



- ・ 通常の操作では、これらのボタンは送信または出力の音量（0～33）を調節します。ドッキングされている場合、これらのボタンは 30 ピンコネクタのラインレベル出力（DLT からリアドック出力ジャックに向かうオーディオのレベル）を調整します -。
- ・ プログラミングモードでは、これらのボタンで設定を変更または選択します。また、トーンコントロール（0～53）にアクセスして調整することもできます（上記の「トーン調整」を参照）。

### トークボタン



- ・ トークボタンを一度押してマイクをアクティブにします。もう一度ボタンを押すとマイクはオフになります。
- ・ およそ 2 秒間長押しして他の DLT300 ゲストユニットをミュートにします。M1 および M2 のみこの機能があります。（ミュートモードになっている間他の全てのユニットで [TALK] LED が点滅します）

### ファームウェアバージョン

- ・ ユニットにインストールされているファームウェアバージョンについて確認するには、 電源ボタンを“F-x”

のように表示されるまで繰り返し押します。X の部分にユニットのファームウェアバージョンが表示されます。

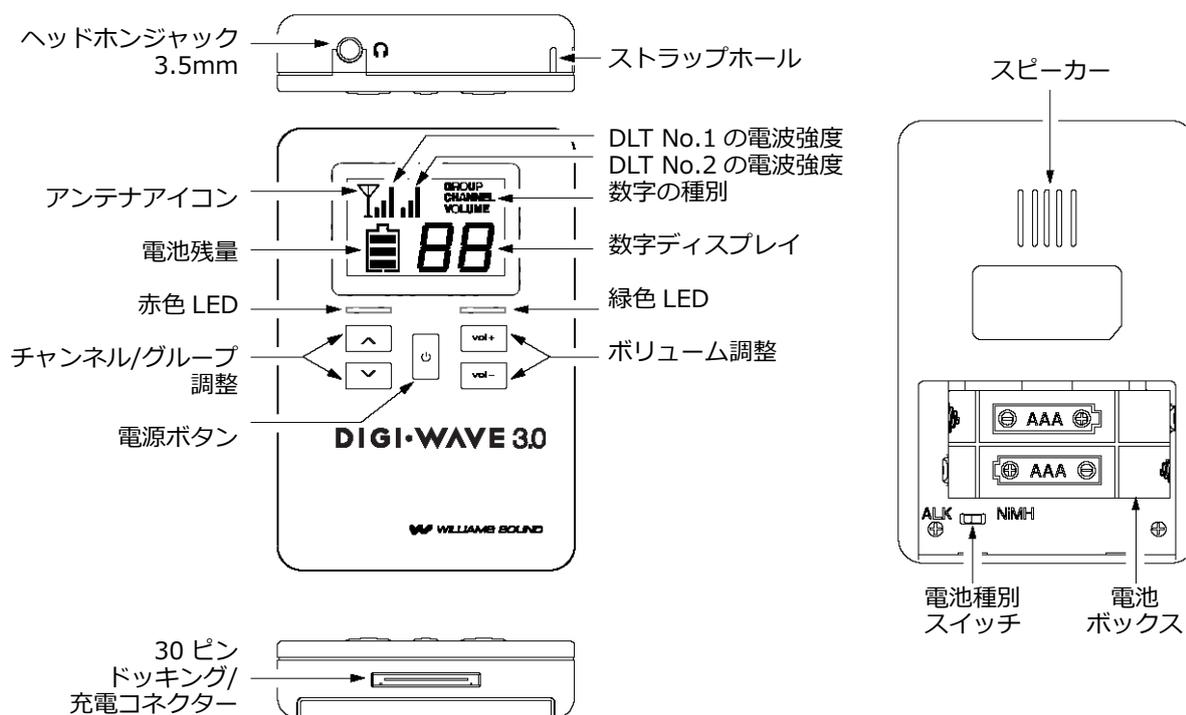
### 充電電池の充電 – DLT 300

1. この製品は内蔵リチウムポリマー充電電池を使用しています。
2. DLT 300 を充電するには、製品の下部についている 30 ピンコネクタを使用します。(1) 外部充電コードを使用するか、または (2) Digi-Wave Dock にドッキングするかのいずれかで充電します。Williams Sound DW ACC PAC または TFP 045 および WCA 095 は、ユニットの充電に使用できます。
3. 満充電されるにはおよそ 5 時間の充電が必要です。充電中は赤色 LED が点滅します。充電が完了すると、緑色 LED が点灯します。
4. 充電電池のメンテナンスについて – 室内の温度下で充電してください。

## 注意！

DLT に使用されているリチウム充電電池は優れたパフォーマンスと長寿命を提供します。しかし、他のすべてのリチウム充電電池同様、充電/放電サイクルの回数には限度があります。リチウム電池は、その想定されるライフサイクル（2 年）を超えて使用する場合に膨らみが発生することがあります。充電電池の膨らみに気づいた場合は、使用を中止し、バッテリーを交換してください。2 年に 1 度の頻度で充電電池を交換することをお勧めします。充電電池交換の詳細については、製品を購入した販売代理店へお問合せください。詳しくは、Williams Sound 社のウェブサイトにも記載しております（英語）：<http://www.williamssound.com/digiwave-battery-replacement>.

## DLR 360 各部の名称



## DLR 360 の操作

- 2本の単四型電池を正しい向きで DLR へ入れてください。DLR には、アルカリ乾電池もしくはニッケル水素充電池のいずれかを使用できますが、ニッケル水素充電池を使用する際には、電池種類スイッチが NiMH の位置にあることを確認してください。アルカリ乾電池を使用する場合には、ALK の位置にスイッチを動かしてください。
- 電源ボタン  を 3 秒間長押しして電源 ON/OFF をします。
- 1way 用途の場合、DLR は設定されているグループ内で接続可能な DLT の 1 つを自動的に探します。チャンネルボタンの上下を押して次の接続可能な DLT を検索できます。2way 用途の場合にはグループを選択する必要があります。
- アンテナアイコンが点滅します。電波強度のアイコンが表示されていないなら、まだ DLT との通信が確立していない状態です。
- DLR が DLT との通信を確立したら、電源ボタンを短く押すことで割り当てられているグループ (0~99) を表示することができます。
- グループ番号を設定します。 と  のボタンを“GROUP”が点滅するまで 3 秒間長押しします。
- + ボタンを押してグループ番号を選択します。
-  と  のボタンを再度長押し、グループ番号を保存します。

9. ボリュームレベルを調整するには、+ – ボタンを押します。00 から 30 までの値が表示されます。
10. ユーザーは DLR の背面にあるスピーカーか、ステレオもしくはモノラルイヤホンをジャックに接続して音声を聞くことができます（イヤホンが接続されるとスピーカーより優先されます）
11. 電池残量アイコンの中のバーが無くなると、アイコンが点滅し電池残量が少なくなったことをお知らせします。
12. DLT と通信が確立しないまま 5 分間経過すると、DLR は自動的に電源 OFF になります。

### ファームウェアバージョン

- ・ ユニットにインストールされているファームウェアバージョンについて確認するには、電源ボタンを“F-x” のように表示されるまで繰り返し押します。X の部分にユニットのファームウェアバージョンが表示されます。

### 充電電池の充電 – DLR 360

1. この製品は電池ボックス内に入れた単四型ニッケル水素充電電池を充電して使用することができます。その際には電池種別スイッチを NiMH の位置にします。
2. DLT 360 を充電するには、製品の下部についている 30 ピンコネクタを使用します。満充電されるにはおよそ 5 時間の充電が必要です。充電中は**赤色 LED** が点滅します。充電が完了すると、**緑色 LED** が点灯します。
3. 充電電池のメンテナンスについて – 室内の温度下で充電してください。

## はじめに：プログラム済みのシステム

システムを購入していれば、プログラミングを行う必要はありません。システムはご注文通りに構成されています。

Master 1 の電源を ON にすると、他のユニットとペアになります。ゲストユニットは、Master を見つけることができない場合、5 分後に電源が OFF になります。

1. すべての DLT を充電してください。DLR を使用する場合は、ニッケル水素充電電池で充電するか、新しいアルカリ乾電池を入れてください。電池種別スイッチが ALK または NiMH の正しい位置にあることを確認します。DLR には、新しい電池が必要です。
2. 最初に Master 1 を特定して電源を ON にします。Master 1 は、通常はグレーのシリコンカバーで識別されます。LCD スクリーンが点灯するまで電源ボタンを押して DLT をオンにします。Master 2 またはゲストの電源が最初に ON になっている場合、M1 とペアになっていないときには、数分後に電源が OFF になります。Master 2 とゲストが M1 とペアになると、M1 と M2 には C-# が表示されます。# はグループ内でペアになっている DLT の数を示します。つまり、C-12 は 12 台の DLT がグループ内の M1 または M2 とペアになっていることを意味します。これは、全員がグループに接続していることを確認する出席チェッカーとして利用できます。
3. すべての DLT の電源が ON になったら、電源/メニューボタンを押して設定をスクロールして、すべてのユニットのセットアップ状態を確認できます。

Master 1 と Master 2 の画面が表示されます（必ずしもこの順番ではありません）。

C-X（議長プラス X = グループ内の参加者数）。

Time：時刻を表示します。

Group number（0～1023）は、グループ内で番号でなければなりません。

ADD：アドレス番号（0～1023）。各 DLT には個別のアドレスが必要です。

「F-#」：ソフトウェアのバージョンを示します。

CODE：コードが入力された場合のみ表示されます（コード番号は表示されません）。

ゲストユニットは以下のものを表示します：

時刻

アドレス番号

ソフトウェアバージョン

グループ番号

セキュアキーコード（入力された場合）

4. ヘッドセットを装着する場合は、DLT の上部にあるジャックに差し込み、マイクとイヤホンのプラグが正しいジャックに完全に挿入されていることを確認します。
5. Master 1 は通常最初のスピーカーで、トークボタンを押してマイクを起動する必要があります。起動はトークボタンの周りの赤い LED の点灯で確認できます。トーク LED が点滅している場合は、トークボタンを長く押しすぎたためトークミュートがシステムで有効になっています。トークミュートを無効にするには、LED の点滅が停止するまでトークボタンを押し続けます。

6. Master 2 とすべてのゲストユニットは、M1 ユニットのオーディオを聞くことができるはずですが、リスニング音量は、- または+ボタンを押して調整できます。他の 1 つの DLT はトークボタンをアクティブにして、団体ツアーや教育・指導のために使うことができます。最大で 6 個のマイクをいつでもつなぐことができます（選択した 2-way モードと選択されたライブマイクの最大数によって異なります）。ゲストユニットが話すには、M1 または M2 のトークボタンを押してトークボタンをオフにする必要があります。

## Digi-wave システム設定のしくみ

選択したモードに応じて、グループ内で最大 6 人まで同時に話すことができます。M1 は第一優先、M2 は第二優先で、ゲストユニットは第三優先です。グループ内で 2 人以上の人が話している場合、参加者は DLT または DLR でその音声を聞くことができます。

M1 と M2 は TALK ボタンを 3 秒間押し続けることで他の話者をロックアウトすることができます。他の参加者が TALK 機能からロックアウトされている間、すべてのシステムの TALK LED が点滅し続けます。

Digi-Wave システムは、複数のモード、および Master（モードによっては Master1・Master2）と Guest をグループ内の DLT にどのように割り当てるかによって構成されます。モード、マスター/ゲスト、グループといったシステム設定に使用する用語について、また Digi-Wave システムの基本的なプログラミングの 4 つのステップについてご説明します。

### 1. 用途とモード

Digi-Wave システムは 1-way 用途に 5 つの、2-Way 用途に 3 つのモード、合計 8 つのモードを持っています。モードは Digi-Wave システムの設定のいちばんはじめに必要な設定であり、DLT の液晶ディスプレイ上部に表示される 4 種のアイコンの組み合わせで定義されます。

用途	1-Way の用途 (会話の流れが一方方向)					2-Way の用途 (双方向会話)		
	1-way Speak Only	1-way Receive/Speak	1-way Repeater	1-way Receive Only	Relay	2-way Intercom	2-way	2-way Receive Only
モード名称	1-way Speak Only	1-way Receive/Speak	1-way Repeater	1-way Receive Only	Relay	2-way Intercom	2-way	2-way Receive Only
主な役割	メインの話者	通訳者	リピーター	聞き手	リレー	最大 6 同時通話インターカム	最大 4 同時通話双方向会話	会話の聞き手
								

#### A. 1-way 用途のモード (5 つ)

1-way の用途では、コミュニケーションの流れは一方方向です。メインの話者の DLT から、ほかの DLT もしくは DLR へと送られます。もしリピーターも一緒に使用するなら、リピーターとなっている DLT は 1 台目の DLT からの音を、同じチャンネルに設定されている他の DLT や DLR へ送信します。一般的な使用目的としては、同時通訳（通訳者は 1 人もしくは複数名）、もしくは質疑応答をしないツアーガイドなどです。

1-way 用途で使用する場合、DLT の設定が 5 種類あり、このような LCD ディスプレイ上のアイコンで確認できます

**1-way -メインの話者 :**  (チャンネル 0 番、話者)

**1-way -通訳者 :**  (チャンネル 0 番を受信し、各言語に割り当てられたチャンネルを使用して発話)

**1-way-リピーター :**  (1 台目のユニットからの電波が到達しない距離にあるユニットが、このユニットからの送信を受信します)

1-way :  リレーモードを用いた通訳 :

通訳者は、フロアとリレーとを素早く切り替えることができます。例えば、フロアは英語を話しており、通訳は英語からスペイン語に通訳しているような場合に使用されます。フロアがフランス語の話者になった場合、フランス語を英語に通訳しているリレーにすばやく切り替えることができるため、通訳者は英語をスペイン語に翻訳し続けることができます。

**1-way-聞き手 (受信のみ) :**  (位置によって 1 台目のユニットかリピーターユニットからの電波を受信し、音声を聞く) 設定のルール (1-way 用途)

1-way の用途で使用するとき、以下のようなルールがあります。これらのルールに沿って使用しないと予測できない結果が生じる可能性があります。

- 同時に使用できるチャンネルは最大 15 です。(例：メインの話者と 14 人の同時通訳者。)
- グループあたり Master(通常、メインの話者を設定します)は 1 台のみ、かつ必ず 1 台設定してください。
- 通訳者にはそれぞれ個々のチャンネル番号を設定してください。
- リピーター機能は 1way モードでのみ使用できます。
- リピーター機能を使用している場合、すべての 15 チャンネルが 1-way モードで動作している必要があります。(例：メインの話者と 14 人の同時通訳者。)
- リピーターが使用されている場合、チャンネル 0 番のリピーターにはグループの Master が割り当てられている必要があります。その他の DLT にはゲスト (GST) を割り当てます。

## B. 2-way 用途のモード (3 つ)

2-way モードでは、電話を使った会話のように、DLT は他の話者の音声を聴きながら発話することができます。DLR は会話を聞くことができます。一般的な使用目的としては以下のようなものがあります：複数のツアーガイドによるツアー、参加者からの質疑応答を受け付けるツアー、ポータブルディスカッション、少人数でのコミュニケーション。

2-way 用途には 2 つの種類があり、このような LCD ディスプレイ上のアイコンで確認できます。

**2-way インターカムモード :**  (最大 6 人まで同時に会話できます)

**2-way モード :**  (最大 4 人まで同時に会話できます)

### 操作のルール (2-way 用途の場合)

以下のようなルールがあります。これらのルールに沿って使用しないと予測できない結果が生じる可能性があります。

- グループあたり Master1(M1)は 1 台のみ、かつ必ず 1 台設定してください。

- Master1 のユニットが電源オフの状態の場合、Master2 とゲストは数分後自動的にオフになります。
- Master2 はオプション（任意）です。Master2 もまた、グループ内で 1 台だけしか設定できません。
- それぞれの DLT は個々にアドレス番号を割り当てられる必要があり、グループ内でアドレス番号は重複することはできません。
- グループあたり最大 4 人の話者(2-way モード)、もしくは 6 人の話者(2-way インターカムモード)が同時に通話することができます。
- 2-way 用途の場合、同一空間内で最大 4 つのグループが同時に動作することができます。それぞれのグループはグループ番号を設定する必要があります。
- 4 つの同時使用グループがある場合、グループ番号は 11、12、13、14 のように連続した番号を設定してください。0 から 1023 のなかのいずれの番号も使用可能です。(DLR を一緒に使うときは 0 から 99 までの間の数を設定してください。)
- 参加者カウント機能はアドレスが 1-99 までの中で割り当てられている場合にのみ機能します (Master1 をアドレス 0 に設定し、最大 100 台の DLT が使用できます)
- セキュリティキーコードが有効になっている場合、グループ内の DLT は同じ 4 桁のコードが設定されている必要があります(DLR はセキュリティキーコードが設定されている DLT とは動作しません)

## 2. マスターとゲストを設定する

Digi-wave300 シリーズは、同一空間で使用する DLT のうちの 1 つをマスター、いわばシステムの「親」に設定することで、その他のすべての DLT もしくは DLR、つまり「子」との通信を行うように設計されています。「親」となる DLT は 1way 用途では Master、2 way 用途では Master1 で定義されます。

2way 用途の場合のみ、Master 1 と Master2 が存在します。しかし、システムの「親」となれるのは Master 1 だけです。また、2way 用途の場合 Master1 (M1) と Master2 (M2) はゲスト (Guest) ユニットより発言の優先権をもちます。たとえば 2way インターカムモードの場合、同じグループ内で同時発言できる数は 6 ですが、7 人目が Talk ボタンを押して発言するときには Guest のいずれか（一番昔に Talk ボタンを押したユニット）の Talk が解除され、7 人目の Talk が有効になります。このとき M1、M2 は解除されることはありません。

また、M1 と M2 はトークボタンを 3 秒長押しすることでほかの話者をロックアウト（拒否）することができる機能を有しています。ほかの参加者のトーク機能をロックアウトしている間、すべてのシステムのトーク LED が点滅し続けます。Master1 はグループ内のほかのユニットよりも優先して話すことができます。Master2 はゲストより優先して話すことができます。

2-way 用途における発話の優先順位は次のように割り当てられています。

- 第 1 優先 : Master1(M1) : **MASTER 1**
- 第 2 優先 : Master2(M2) : **MASTER 2**
- 第 3 優先 : Guest (GST) : **GUEST**

## 3. チャンネル、もしくはアドレスを設定する

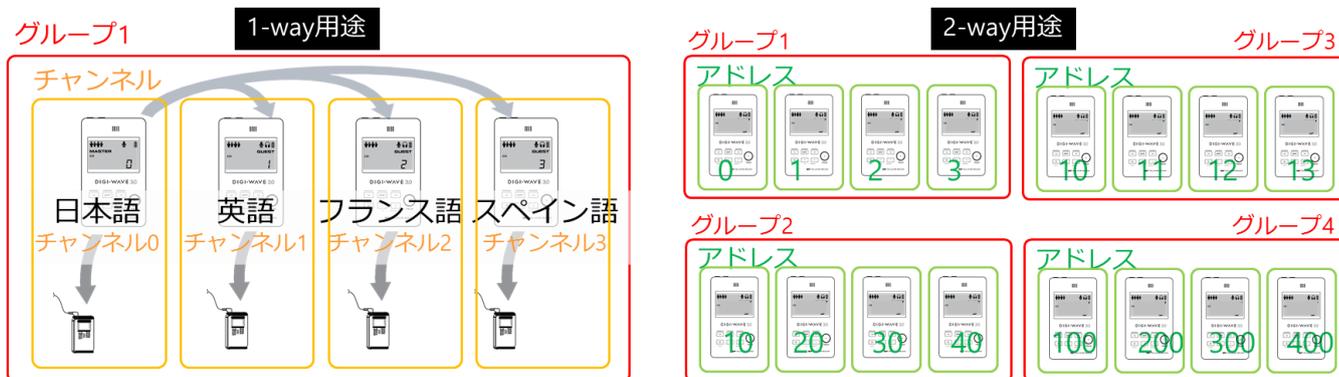
「チャンネル」は 1 way 用途でのみ使用する設定です。0～14 の計 15 チャンネルを使用可能です。

「アドレス」は 2way 用途でのみ使用する設定です。個々の DLT はグループ内でユニークな（他と重複しない）アドレス番号を設定する必要があります。

#### 4. グループを設定する

話し手と、それを聞く参加者、つまり 1 つのシステムとして動作するユニットは同じグループに設定されている必要があります。一つのシステムとして動作するユニットが同じグループに設定されていることとなります。電波の到達する範囲（同一空間）内において、1-way 用途では最大 1 つのグループ、2-way 用途では最大 4 つのグループが同時に動作可能です。

グループ	1つのシステムとして同時に使用（通信）するDLTおよびDLRを決定する番号。
チャンネル	<b>1way用途でのみ</b> 設定する番号。同時通訳の場合メインスピーカーをチャンネル0、通訳者をチャンネル1-14に設定する。聞き手およびDLRはどれか一つのチャンネルを選択して聞く。
アドレス	<b>2way用途でのみ</b> 設定する番号、各DLTに設定必要（DLRは不要）。グループ内で重複禁止。



上の図内のチャンネル設定および言語の割り当て、アドレスの割り当てはあくまで一例です。

## Digi-Wave システムを 1-way 用途に設定する

Digi-wave システムの 1way 用途設定の基本的な順序は 4 ステップです。

1. モードを設定する：4 種類
2. Master もしくは Guest の選択
3. チャンネルを設定する
4. グループ番号を設定する

ほとんどの設定は DLT 上で終了します。レシーバーは正しいグループ番号が割り当てられていることだけが必要です。Master ははじめに設定される必要があります—ほかのすべてのユニットが Master と通信し、同期します。

### Step1. モードを設定する

- a. DLT の電源を入れ、 と  を同時に長押しし、画面上のアイコンが点滅している状態にします。
- b.   のいずれかを押し、vol / select の組み合わせ（モード）を選択します。
- c. 下記の 1-way 用途のモードのいずれか適切なものが表示されたら、ステップ 2 へ進みます。

1-way -メインの話者：

1-way -通訳者：  (サブモード：バイリンガルモードとリレーモード)

1-way -リピーター：

1-way -聞き手：

### Step2. Master もしくは Guest の選択

- a. 電源/メニューボタン  menu を一回押しして Master/Guest 選択へ進みます。
- b.   のいずれかを押しして適切な設定を選択します。

Master : **MASTER** (グループあたり 1 台のみ必須)

Guest (GST) : **GUEST** (その他のユニットすべて)

- c. 目的の設定が選択されたら、次のステップへ進みます。

### Step3. チャンネルを設定する

- a. 電源/メニューボタン  menu を一回押ししてチャンネル設定へ進みます。“CH”が点滅し現在のチャンネル番号が表示されます。
- b.   のいずれかを押ししてチャンネルを変更します。

### Step4. グループ番号を設定する

- a. 電源/メニューボタン  menu を一回押ししてグループ設定へ進みます。“GROUP”が点滅し現在のグループ番号が表示

示されます。

- b.   のいずれかを押しグループを変更します。
- c. 一つのシステムとして一緒に使用するユニットはすべて同じグループ番号に設定する必要があります。

## Digi-Wave システムを 2-way 用途に設定する

Digi-wave システムの設定の基本的な順序は 4 ステップです。

1. モードを設定する：3 種類
2. Master1、Master2、そして Guest のいずれかを選択
3. アドレスを設定する
4. グループ番号を設定する

ほとんどの設定は DLT 上で終了します。レシーバーは正しいグループ番号が割り当てられていることだけが必要です。Master1 ははじめに設定される必要があります—ほかのすべてのユニットが Master 1 に通信し同期します。

### Step1. モードを設定する

2-way 用途には 3 つのモードがあり、下記のような LCD ディスプレイ上のアイコンで確認できます。

2-way-インターカムモード： 

2-way モード： 

2-way-会話の聞き手：

- a. DLT の電源を入れ、 と  を同時に長押しし、アイコンが点滅している状態にします。
- b.    
vol / select のいずれかを押してアイコンの組み合わせ（モード）を選択します。
- c. 上記のモードのいずれか適切なものが点滅している状態になったら、ステップ 2 へ進みます。

### Step2. Master1、Master2、Guest の選択

- a. 電源/メニューボタン  を一回押して Master/Guest 設定へ進みます。
- b.    
vol / select のいずれかを押して適切な設定を選択します。

Master1(M1)： **MASTER 1**（グループあたり 1 台必須）

Master2(M2)： **MASTER 2**（任意）

Guest (GST)： **GUEST**（グループ内のほかのユニットはすべてこの設定）

- c. 設定が選択されたら、次のステップへ進みます。

### Step3. アドレスを設定する

- a. 電源/メニューボタン  を一回押してアドレス設定へ進みます。“ADDRESS”が点滅し現在のアドレス番号が表示されます。
- b.    
vol / select のいずれかを押してアドレスを変更します。
- c. 各ユニットは異なる（他のユニットと重複しない）アドレスを割り当てる必要があります。

## Step4. グループ番号を設定する

- a. 電源/メニューボタン  を一回押してグループ設定へ進みます。“GROUP”が点滅し現在のグループ番号が表示されます。
- b.   のいずれかを押してグループを変更します。
- c. 一緒に使用するユニットはすべて同じグループ番号に設定する必要があります。

## Digi-Wave システムの設定 : オプション設定

### DLT セキュアキーコード

グループが設定され、すべての DLT にセキュアキーコードが設定されたとき、セキュアコードが入力されていない DLT では同じグループに設定しても音声を聞くことができません。高いセキュリティが必要な場合に使用する機能です。

同じ 4 桁の数字のコードをすべての DLT に設定する必要があります。もし異なるセキュアコードが入力された場合、参加者は正しいセキュアコードが再入力されるまでグループに加わることはできません。セキュアコードは入力時にしか表示されません。なお、ユーザーが設定メニューに入るのを防ぐためには、SET-UP LOCK (SLOC) 機能を使用してください。

1. 4 桁の数字のコードを入力します。(例 : 1357) グループ内のすべての DLT に同じコードを入力する必要があります。
2. 設定は Master1/Master から始めてください。
3. DLT の電源を入れ、上下キーを同時に 2 秒間長押しして設定メニューに入ります。
4. 電源/メニューボタンを押して図 1 の画面まで進みます。
5. 4 桁の入力画面で、最初のハイフンが点滅している状態です。+ ボタンを使用して、1 桁目の数字 (0~9) を入力します。
6. 電源/メニューボタンを再度押して 2 桁目へ進みます。
7. 2 桁目に数字を入力し、同様に 3 桁目、4 桁目も入力します。
8. 電源/メニューボタンを再度押すと CodE の文字が表示されます。(図 2)
9. セキュアキーコードが入力されたら、上下キーを同時に 2 秒長押しして、設定メニューを終了します。
10. Master2 およびゲストユニットも同様に行ってください。

図 1

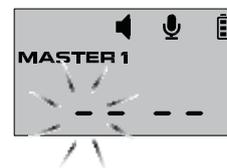


図 2



注意 : Master2 およびゲストユニットの場合はコードの入力までのステップが Master1 より短くなる場合があります。

## DLT 設定ロック (Set-Up Lock : SLOC)

設定ロック機能 (SLOC) はシステムの管理者がユーザーによる意図しない設定変更を防ぐために使用する機能です。

**注意：各 DLT のロック/ロック解除は個々に行う必要があります。**

1. まず上  ボタンを 2 回、次に下  ボタンを 2 回続けて押します (上-上-下-下)。この操作は 5 秒以内に行ってください。“SLOC”の文字が画面に短時間表示されます (図 3)。これで設定ロックが有効になりました。
2. 設定ロックが有効になっている間、もしユーザーが設定モードに入って設定を変えようとしても、図 3 のように“SLOC”の文字が画面に短時間現れ、設定を変更できません。
3. この機能をオフにするには、再度上  ボタンを 2 回、次に下  ボタンを 2 回続けて押します (上-上-下-下)。SLOC の文字は表示されません。これで設定ロックが解除され、(上下キーを同時に 2 秒間長押しして) 設定モードに入れるようになります。

図 3



## DLT 参加者チェック

2way 用途の場合、M1 に設定されているユニットの電源/メニューボタンを一度押すと、接続されているゲストの数が 2 秒間表示されます。(例：C12=12 台の DLT が M1 に接続されている) この機能を使用するには 0~99 のいずれかの数をアドレス番号として設定している必要があります。99 以上の数は設定できません。

## DLT トーンコントロール

1. DLT の電源を入れ、- +   ボタンを同時に 2 秒間長押しします。
2. LCD ディスプレイに t: (1-9)のように現在設定されているトーンの値が表示されます。(図 4)
3. - + ボタンを使用してトーンの値を調整します。  
1=最も低音 5=フラット (規定値) 9=最も高音
4. - + ボタンを再度同時に 2 秒間長押ししてトーンの設定を終了します。

図 4



## DLT のアドレス確認

M1・M2 の場合は 3 回続けて、ゲストの場合は 2 回続けて、電源/メニューボタンを押すと設定されているアドレスが 2 秒間表示されます。

**注意：個々の DLT は独自のアドレスを割り当てられ、グループ内で重複しないよう設定する必要があります。**

## DLT クイックグループチェンジ

クイックグループチェンジは 2-way 用途でのみ適用されます。

1. DLT の電源を入れ、Group  ボタンを長押ししていると、画面上の“GROUP”の文字が点滅し、Group ボタンの上のライトが点灯します。(図 5)
2. 上  ボタンもしくは下  ボタンを押してグループを変更します。もしボタンが何も押されなければ、クイックグループチェンジは 5 秒間でタイムアウトします。
3. Group  ボタンを再度押してクイックグループチェンジ機能を終了します。

図 5



## DLT プッシュ・トゥ・トーク (Ptt) とプッシュ&ラッチ (PnL)

この設定は、ユーザーが発言するときの設定、プッシュ・トゥ・トーク (Ptt : Push to talk) とプッシュ&ラッチ (PNL : Push and Latch) を選択するものです。既定の設定はプッシュ&ラッチ (PnL) となっています。

PnL モードの場合、TALK  ボタンを押して指を話したら、次にもう一度 TALK ボタンを押して指を話すまでずっと発言できる状態が維持されます。

Ptt モードの場合、発言する間はずっと TALK ボタンを押し続けている必要があります。ボタンから指を話すと、発言できなくなります。

これらのステップの前に DLT はゲストユニット、2-Way モードに設定されている必要があります。

1. DLT の電源を入れ、上下キーを同時に 2 秒間長押しして設定モードに入ります。
2. 電源/メニューボタンを何度か繰り返して押し、画面上に“TALK”の文字が点滅し“Ptt”もしくは“PnL”と表示されるまで進みます。(図 6)
3.   ボタンを押して“Ptt”と“PnL”を切り替えます。
4. 再度上下キーを同時に 2 秒長押しして、設定モードを終了します。

図 6



## DLT サイドトーン調節

この設定は、ユーザーが発言したときに自分のヘッドセットに聞こえる自分の声 (サイドトーン) のボリュームを調整するものです。

※DLT サイドトーンの変更は 2way 用途の設定時のみ設定可能です。1way 用途で使用される場合にも一度 2way 用途の設定に入り、サイドトーンを適切な値に変更して設定を完了し、再度 1way 用途の各モードに変更してください。

1. DLT の電源を入れ、上下キーを同時に 2 秒間長押しして設定モードに入ります。
2. 電源/メニューボタンを何度か繰り返して押し、画面上に“St”と表示されるまで進みます。(図 7)
3.   ボタンを押して St:0(オフ)、St:1 (-6dB) (デフォルト)、St:2 (-12dB) を切り替えます。
4. 再度上下キーを同時に 2 秒長押しして、設定モードを終了します。

図 7



## DLT マイクロフォンレベル・ラインレベル調節

マイクロフォンレベル調節を行うには、 ボタンを 2 秒間長押しします。ラインレベル調整を行うには、 を 2 秒間長押しします。  ボタンを押して調整します。

## DLT の時刻表示

時刻表示機能が有効になっているとき、電源ボタンを一度短く押す (M1 ユニットは 2 度短く押す) と DLT 上に時刻が表示されます。すべてのユニットの時刻は Master/M1 ユニットと同期されています。時刻表示を有効にするには、まず M1

ユニットの電源をオフにします。そしてその後、TALK  ボタンを押しながら M1 ユニットの電源を入れます。グループ

内のすべてのユニットに時刻が表示されます。この手順を再度繰り返すと、時刻表示機能を無効にすることができます。

## DLT トークボタン“オフ”時のビービー音と音量の制限

ユーザーはトークボタンがオフになる際に“ビービー”という音を聞きます（ヘッドセット使用時のみ）。この音はユニット間には送信されません。DLT300 において、ヘッドセットの音量が大きくなるのに比例して、このビービーという音も大きくなりますが、ヘッドセットボリューム 37 に達するとそれ以上は音量があがらないようになっています。（注意：DLT 100 モデルでは、ヘッドホンの音量が上がるにつれてビービー音が限度なく大きくなり続けます。）

## DLR 設定ロック（Set-Up Lock : SL）（ファームウェアバージョン 4 以上で利用可能な機能）

設定ロック機能はシステムの管理者が DLR ユーザーによる意図しない GROUP 設定変更を防ぐために使用する機能です。

**注意：各 DLR のロック/ロック解除は個々に行う必要があります。**

### ユニットをロックする（SL を有効にする）

1.  と  のボタンを同時に長押しして設定モードにします。GROUP のインジケーターが点滅します。
2. 上  ボタンを 2 回、次に下  ボタンを 2 回続けて押します（ $\wedge\wedge\vee\vee$ ）。“SL”の文字が短時間画面に表示され、消えます。SL が有効になりました。

設定ロックが有効になっている間、ユーザーが GROUP を変更しようとしても、“SL”の文字が画面に現れて、このユニットがロックされていることを知らせます。SL モードになっている間も、音量調整は可能です。

### ユニットのロックを解除する（SL を無効にする）

1. 上  ボタンを 2 回、次に下  ボタンを 2 回続けて押します（ $\wedge\wedge\vee\vee$ ）。“SL”の文字が短時間画面に表示され、消えます。これによって設定モードには入れるようになりますが、まだユニットのロックは解除されていません。
2. ステップ 1 から 3 秒以内に  と  のボタンを同時に長押しして設定モードに入ります。GROUP のインジケーターが点滅します。
3.  と  のボタンを同時に長押しして設定モードを終了します。設定モード（SL）は無効になりました。  
注意：ステップ 1 でその時のみ設定モードに入れるようになりますがその後のステップ 2・3 を終了しないと解除のプロセスにはなりません。

**注意：各 DLR のロック/ロック解除は個々に行う必要があります。**

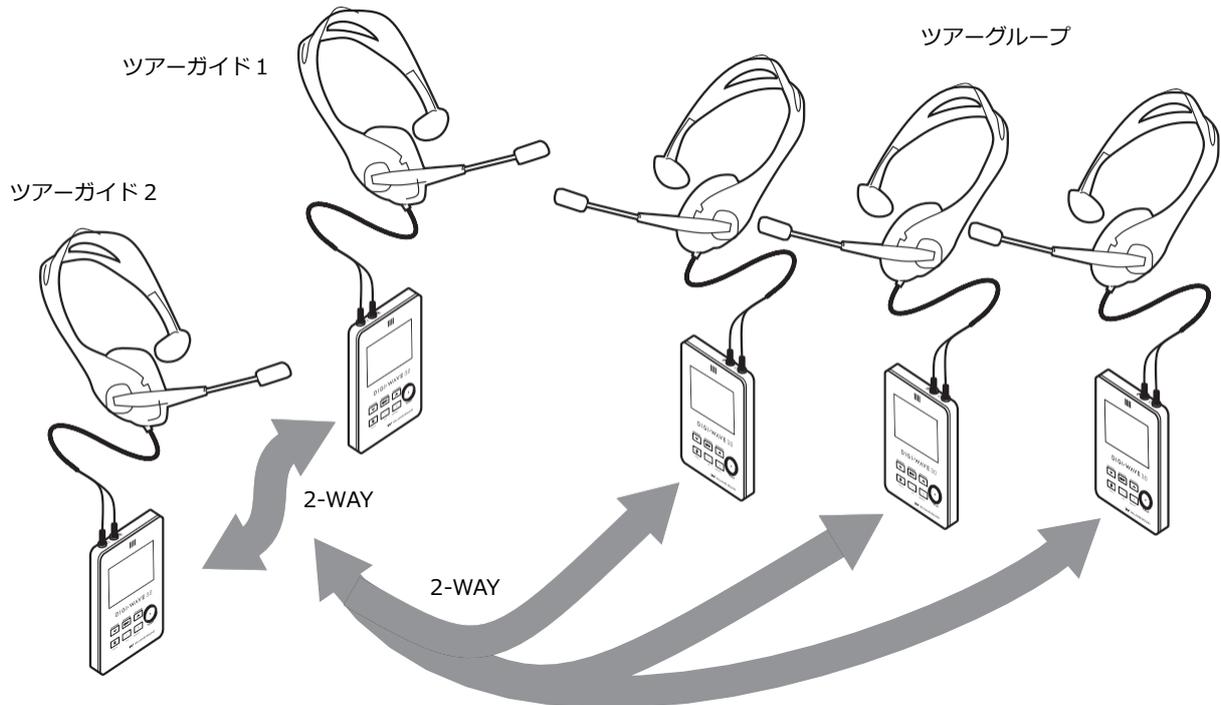
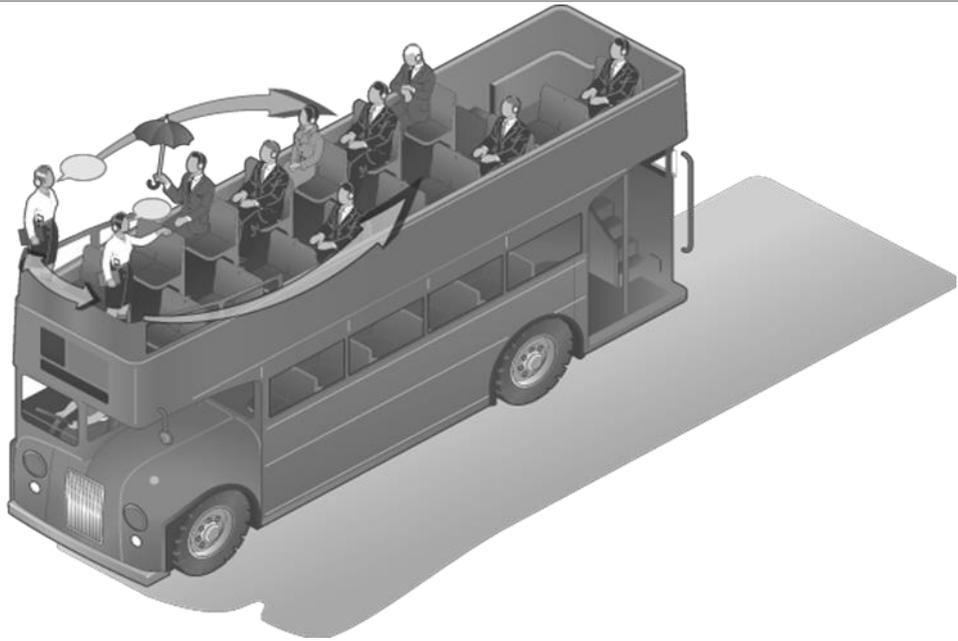
## 構成例 1 : ツアーガイド (2-way 用途、2-way モード)

### HOW IT WORKS

4 人まで、オープンマイク (TALK ボタン ON) を使用し、同時に話すことができます。DLT の 1 つはツアーガイドの Master 1 ユニットとしてセットアップされており、各ツアーメンバーにはゲストユニットとして設定された DLT が配布されています。5 人目が話したいときは、トークボタンを押すと、最初のゲストユニットがオフになります (トークボタンが無効になります)。マイクを ON にする最初のゲストユニットは、5 番目のユニットが会話に参加したいときに OFF になる最初のゲストユニットです。ライブグループのメンバーではない人が TALK ボタンを押すたびにこの First-In-First-Out (FIFO) のルールが適用されます。

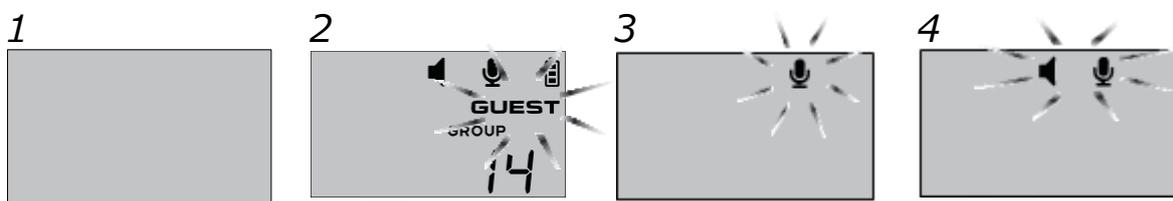
すべての DLT は、単独 (内蔵スピーカー) で、または互換性のあるヘッドセットマイクで使用できます。

1. ツアーガイドは Master DLT を使用して話します。
2. 各ツアーグループのメンバーは、ゲスト DLT を使用してツアーガイドを直接聞きます。
3. この時点で、ツアーメンバー 1~3 のマイクはいつでも話せるように、「ライブ」(TALK ボタン ON) になっています。ツアーメンバー 1 は質問をし、ツアーガイドは質問を聞いて話し、グループの全員が質問と回答を聞きます。
4. ツアーメンバー 4 に質問がある場合、メンバー 4 は TALK ボタンを押すと、メンバー 1 の DLT が無効になり、ツアーガイドに質問ができます。そしてすべてのツアーグループのメンバーは質問と回答を聞くことができます。
5. 他のツアーメンバーは、TALK ボタンを押して他の誰かを OFF にすることで質問をすることができます。このサイクルをいつまでも行うことはできますが、同時に「ライブマイク」を持つことができる DLT は 4 つだけです。
6. ツアーガイドは必要に応じて、ツアーグループメンバー (ゲスト) のユニットより優先して発言し、ディスカッションをコントロールすることができます。これは TALK ボタンを押し続けて、ゲストのすべてのマイクをミュートにして行います。
7. 2 人目のツアーガイドを追加することができます (Master 2 ユニット、図にはありません)。また、このユニットもゲストユニットよりも優先されます。Master 1 と 2 は双方向通話の機能を備えています彼らは話す/聞くを同時にお互いに行うことができます。ツアーグループメンバーは受信だけでこの会話に参加し、ボタンを押すことで質問を行うことができます。



ツアーガイド利用のための 2-WAY モード設定

用途	1-Way の用途 (会話の流れが一方向)					2-Way の用途 (双方向会話)		
	1-way Speak Only	1-way Receive/ Speak	1-way Repeater	1-way Receive Only	Relay	2-way Intercom	2-way	2-way Receive Only
モード名称	1-way Speak Only	1-way Receive/ Speak	1-way Repeater	1-way Receive Only	Relay	2-way Intercom	2-way	2-way Receive Only
主な役割	メインの話者	通訳者	リピーター	聞き手	リレー	最大 6 同時通話インターカム	最大 4 同時通話双方向会話	会話の聞き手

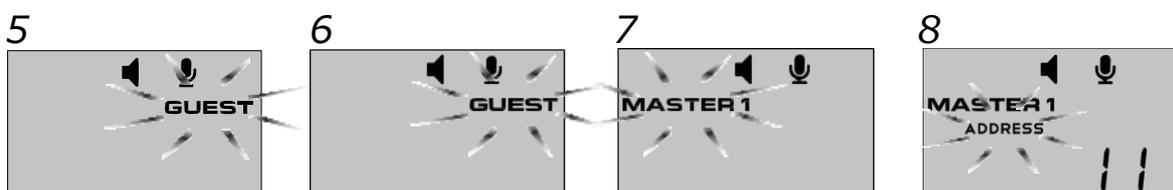


1 電源ボタンを 2 秒長押しして DLT の電源を入れます。

2 のボタンを同時に 3 秒間長押しして設定モードにします。

3 現在のモードアイコンが点滅し、ほかの表示が消えます。

4 ボタンを押し 2way モードに変更します。

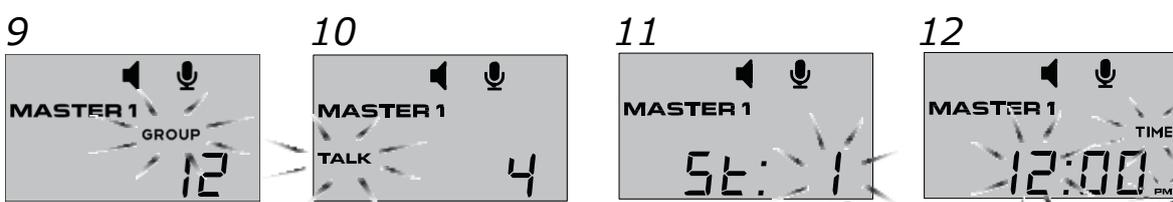


5 電源/メニューボタンを押して次へ進みます。

6 ボタンを押し Master1 を選びます。(1 台目のユニットのみ)

7 Master1 はグループあたり 1 台かならず設定する必要があります。電源ボタンを押して次へ進みます。

8 ADDRESS が点滅します。- + ボタンを使ってアドレス(0-1023)を設定し、電源ボタンを押して次へ進みます



9 GROUP が点滅します。- + ボタンを使ってグループ番号を設定し、電源ボタンを押して次へ進みます。

10 TALK が点滅します。- + ボタンを使って同時に発言することのできる人数を決め、電源ボタンを押します

11 サイドトーンレベルが点滅します。- + ボタンを使ってサイドトーンレベルを調整します。

12 TIME と「時」が点滅します。- + ボタンを使って時刻 (AM/PM あり) を設定し電源ボタンを押します

13



TIME と「分」が点滅します。-+ボタンを使って時刻を設定します。電源ボタンを押して時刻設定を保存し、次の設定に進みます。

14



セキュアコードの一ケタ目が点滅します。コードを設定しない場合は電源ボタン4回押しして飛ばします。

15



セキュアコードを入力する場合は、-+ボタンを使って数字を入力し電源ボタンを押して次の桁へ進みます

16



繰り返し-+ボタンを使って数字を入力し4桁すべての数字を設定し、電源ボタンを押します。

17



現在設定されているモードのアイコンが点滅し、設定の最初の項目に戻ります。

18



▼▲のボタンを同時に3秒間長押しして設定モードを終了します。

## 構成例 2 : 同時通訳 (1-way 用途)

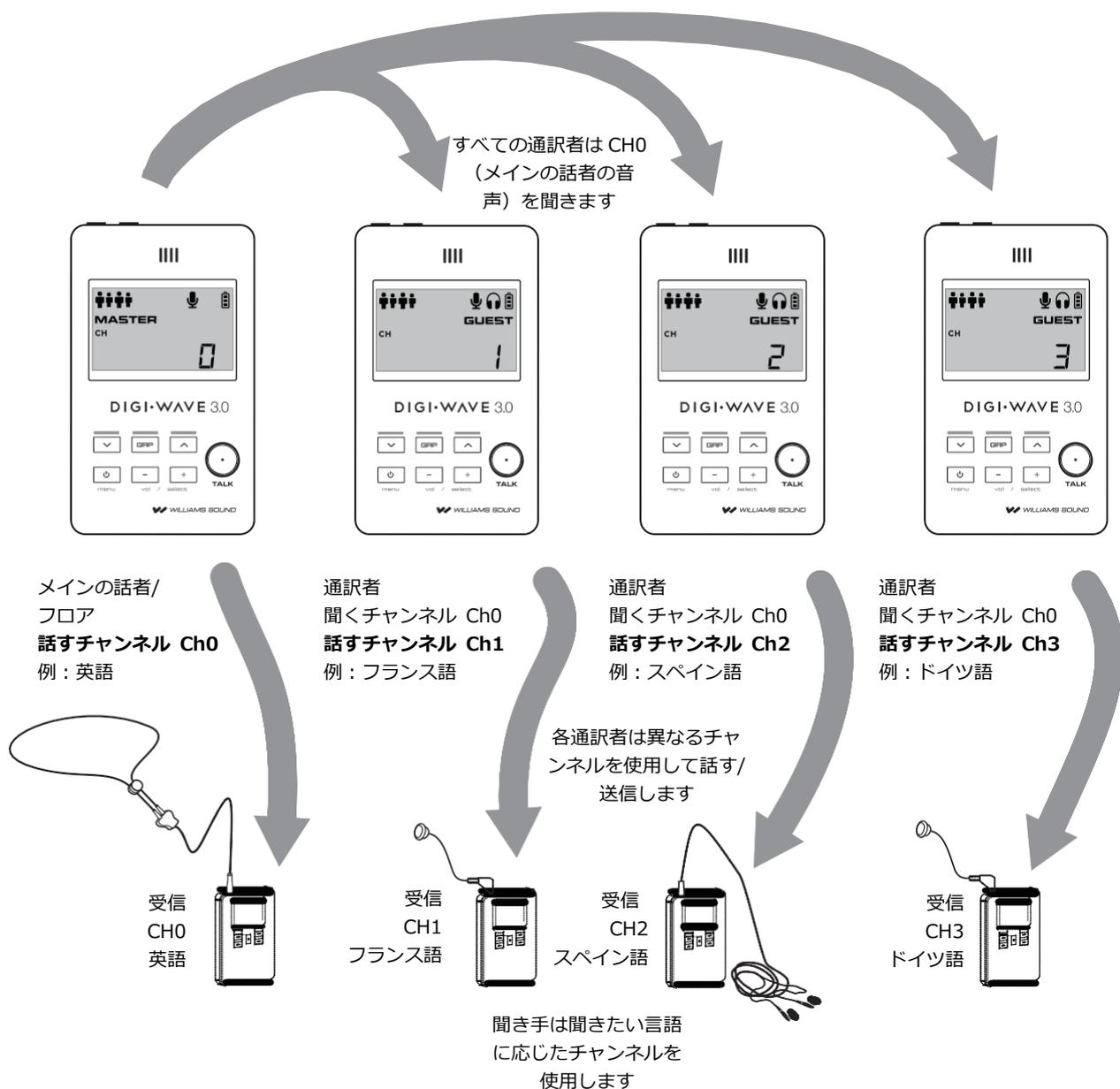
### HOW IT WORKS

フロアユニット (メインプレゼンター) は、チャンネル 0 で送信します。すべての通訳者用ユニットは、チャンネル 0 で Floor を受信し、チャンネル 1~14 で通訳者の音声を送信します。チャンネルを変更することで、いつ誰でもチャンネル 0 またはチャンネル 1~14 の通訳を聴くことができます。

1. メインの話者 (フロア) がチャンネル 0 を使用します。TALK ボタンを押してマイクロフォンを有効にします。
2. それぞれの通訳者は個別のチャンネル番号 (1-14) を割り当てられます。TALK ボタンを押して通訳音声を参加者 (聞き手) に届けます。
3. メインの話者 (フロア) が DLT 1 台を使用し、発言します (内蔵マイクもしくはヘッドセットマイクを使用)。
4. 通訳者は、DLT のみ (内蔵スピーカー) を使用するか、互換性のあるヘッドセットマイクを使用して、直接フロアの音声を聞きます。
5. 通訳者は DLT 1 台を使用し、ボタンを押して同時通訳を行います (内蔵マイクもしくはヘッドセットマイクを使用)。
6. 各言語の聞き手は DLR を使用して通訳音声を聞きます。

追加の DLT をリピーターとして使用することで、各チャンネルの受信範囲 (電波の到達距離) を延ばすことができます。リピーター機能は 1-way 用途でのみ使用可能です。リピーターモードについてより詳しくは「リピーターモード」の章を参照してください。

3.5mm のステレオマイクロフォンジャックはヘッドホンレベルに対応していますが、Williams Sound WCA 094 アッテネーテッドケーブルを使用するか、Digi-wave Dock を使用することでラインレベルの入力にも対応させることが可能です。



同時通訳利用のための 1-WAY-通訳者設定

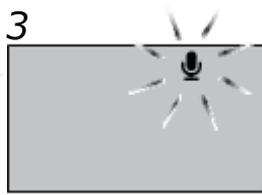
用途	1-Way の用途 (会話の流れが一方向)					2-Way の用途 (双方向会話)		
	1-way Speak Only	1-way Receive/Speak	1-way Repeater	1-way Receive Only	Relay	2-way Intercom	2-way	2-way Receive Only
モード名称	1-way Speak Only	1-way Receive/Speak	1-way Repeater	1-way Receive Only	Relay	2-way Intercom	2-way	2-way Receive Only
主な役割	メインの話者	通訳者	リピーター	聞き手	リレー	最大 6 同時通話インターカム	最大 4 同時通話双方向会話	会話の聞き手



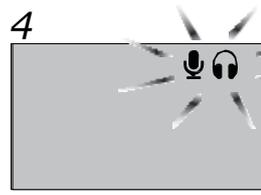
1  
電源ボタンを2秒長押ししてDLTの電源を入れます。



2  
▼ ▲ のボタンを同時に3秒間長押しして設定モードにします。



3  
現在のモードアイコンが点滅し、ほかの表示が消えます。



4  
- + ボタンを押し1way同時通訳モードに変更します。



5  
電源/メニューボタンを押して次の設定へ進みます。



6  
- + を押してMasterを選択し(1台のみ、グループあたり1台必須)電源ボタンを押します



7  
GROUPが点滅します。- + ボタンを使ってグループを設定し、電源ボタンを押して次へ進みます。



8  
サイドトーンレベルが点滅します。- + ボタンを使って調整します。電源ボタンを押して次へ進みます。



9  
TIMEと「時」が点滅します。- + ボタンを使って時刻(AM/PMあり)を設定し電源ボタンを押します



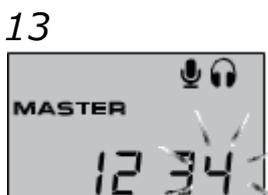
10  
TIMEと「分」が点滅します。- + ボタンを使って時刻を設定します。



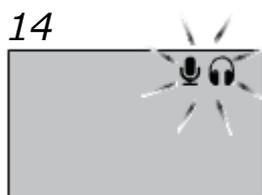
11  
セキュアコードのケタ目が点滅します。コードを設定しない場合は電源ボタンを押してスキップします。



12  
電源ボタンを押して次の桁の設定へ進みます。



13  
繰り返し- + ボタンを使って数字を入力し4桁すべての数字を設定し、電源ボタンを押します。



14  
現在設定されているモードのアイコンが点滅し、設定の最初の項目に戻ります。



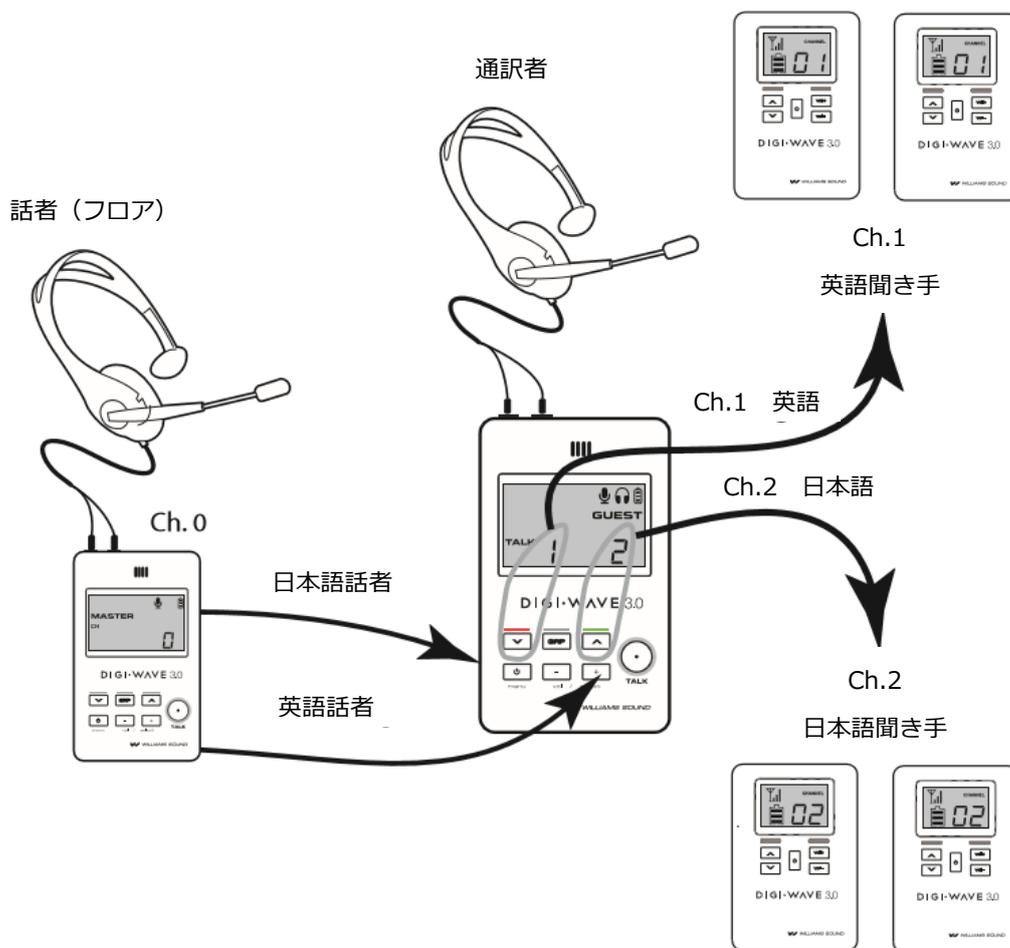
15  
▼ ▲ のボタンを同時に3秒間長押しして設定モードを終了します。

## 構成例 3 : バイリンガルモード

### 使い方

バイリンガルモードは、同時通訳モードのサブモードです。このモードでは、聞き手がどの言語を使うかまたはどの聞き手が聞くかに応じて、通訳者は Ch.1 または Ch.2 に出力チャンネルをすばやく切り替えることができます。このモードでは、通訳者が固定チャンネルにプログラムされた DLT ユニットの 2 つを使う（物理的に切り替える）必要がありません。バイリンガルモードは、2018 年 1 月以降に購入した DLT300、バージョン F7 以降の製品にのみ搭載されています。

この例では、フロアは日本語話者から英語話者になります。フロアで日本語が話されている時には、バイリンガルの通訳者は「v」ボタンを押して出力チャンネルを Ch.1 に設定します。そして Ch.1 を聞いている英語の聞き手に対して日本語から英語に通訳をします。フロアが英語話者になると、通訳者は「^」ボタンを押して出力チャンネルを Ch.2 に変更します。そして Ch.2 を聞いている日本語の聞き手に対して英語から日本語に通訳をします。



### プログラミングと運用について :

— DLT のバイリンガルモードでは、伝送チャンネルとして Ch.1 または Ch.2 のいずれが選択されているかどうかに関係なく、常に Ch.0 を聞きます。

- Ch.1 と Ch.2 に伝送するようプログラミングできるのは DLT のうち 1 つだけです。複数の DLT が Ch.1 や Ch.2 に伝送するようプログラムされている場合、ユーザーがプログラミングモードを終了すると LED や CH インジケーター、チャンネル番号が点滅します。
- バイリンガル通訳モードは、より大きなシステム内でも利用することができます。例えば、通訳者は Ch.1 や Ch.2 でバイリンガルモードを使用している間に、他の通訳者が別のチャンネルで「通常」モードを使用することができます。

## バイリンガル運用のための 1-way (片方向通話) セットアップ

### 1. マスターユニットのプログラミング

用途	1-Way の用途 (会話の流れが一方向)					2-Way の用途 (双方向会話)		
	1-way Speak Only	1-way Receive/Speak	1-way Repeater	1-way Receive Only	Relay	2-way Intercom	2-way	2-way Receive Only
モード名称	メインの話者	通訳者	リピーター	聞き手	リレー	最大 6 同時通話 インターカム	最大 4 同時通話 双方向会話	会話の聞き手
主な役割	メインの話者	通訳者	リピーター	聞き手	リレー	最大 6 同時通話 インターカム	最大 4 同時通話 双方向会話	会話の聞き手

1



ボタンを 2 秒間長押しして DLT の電源を入れます。

2



のボタンを同時に 3 秒間長押ししてプログラミングモードにします。

3



現在のモードアイコンが点滅し、ほかの表示が消えます。

4



ボタンを押してスピーカオンリーモードに変更します。 ボタンを押して次へ進みます。

5



ボタンを押して Master を選びます。(1 台目のユニットのみ) Master はグループあたり 1 台かならず設定する必要があります。 ボタンを押して次へ進みます。

6



GROUP が点滅します。 ボタンを使ってグループ番号を設定し、 ボタンを押して次へ進みます。

7



TIME と「時」が点滅します。 ボタンを使って時刻 (AM/PM あり) を設定し ボタンを押します

8



TIME と「分」が点滅します。 ボタンを使って時刻を設定します。 ボタンを押して時刻設定を保存し、次の設定に進みます。

9



セキュアコードの 1 桁目が点滅します。 ボタンを押して、1 桁目を調節します。

10



ボタンを押して次の桁に進みます (1 桁目の数字は表示されません)。

11



ステップ 9 と 10 を繰り返して 4 桁すべてを入力します (入力された桁は表示されません)。 ボタンを押します。

12



この場合には選択されている桁がないため、4 つのダッシュが表示されています。 ボタンを押します

13



現在選択されているモードが点灯します。これはプログラミングの最初の画面です。

14



▼ ▲ ボタンを3秒間長押ししてプログラミングモードを終了します。

## 2. ゲストユニットのプログラミング

用途	1-Way の用途 (会話の流れが一方方向)					2-Way の用途 (双方向会話)		
	1-way Speak Only	1-way Receive/Speak	1-way Repeater	1-way Receive Only	Relay	2-way Intercom	2-way	2-way Receive Only
モード名称	1-way Speak Only	1-way Receive/Speak	1-way Repeater	1-way Receive Only	Relay	2-way Intercom	2-way	2-way Receive Only
主な役割	メインの話者	通訳者	リピーター	聞き手	リレー	最大 6 同時通話 インターカム	最大 4 同時通話 双方向会話	会話の聞き手

1



⏻ ボタンを2秒間長押しして DLT の電源を入れます。

2



▼ ▲ のボタンを同時に3秒間長押ししてプログラミングモードにします。

3



現在のモードアイコンが点滅し、ほかの表示が消えます。

4



− + ボタンを押して 1-way 通訳モードに変更します。⏻ ボタンを押して次へ進みます。

5



⏻ ボタンを押して次へ進みます。

6



− + ボタンを押して Guest を選択します。複数の Guest ユニットを設定することができます。Master はグループあたり 1 台かならず設定する必要があります。⏻ ボタンを押します。

7



バイリンガルモードのオプション; 「n」が点滅します。バイリンガルモード (n = オフ、y = オン)。

8



− + ボタンを押して (y) を選択します。⏻ ボタンを押して次の設定に進みます。

9



チャンネルアイコンが点滅します。  
 [-] [+] ボタンを押してチャンネルを選択します。  
 [ON] ボタンを押します。

10



Group アイコンが点滅します。  
 [-] [+] ボタンを押して調節します。  
 [ON] ボタンを押します。

11



セキュアコードの1桁目が点滅します。  
 [-] [+] ボタンを押して、1桁目を調節します。

12



[ON] ボタンを押して次の桁に進みます (1桁目の数字は表示されません)。

13



ステップ 12 と 13 を繰り返して4桁すべてを入力します (入力された桁は表示されません)。  
 [ON] ボタンを押します。

14



この場合には選択されている桁がないため、4つのダッシュが表示されています。  
 [ON] ボタンを押します

15



現在選択されているモードが点灯します。プログラミングの最初の画面に戻ってきました。

16



[DOWN] [UP] ボタンを3秒間長押ししてプログラミングモードを終了します。

設定が完了したユニットは次のような画面になります。

マスターユニット - フロア



ゲストユニット - 通訳者

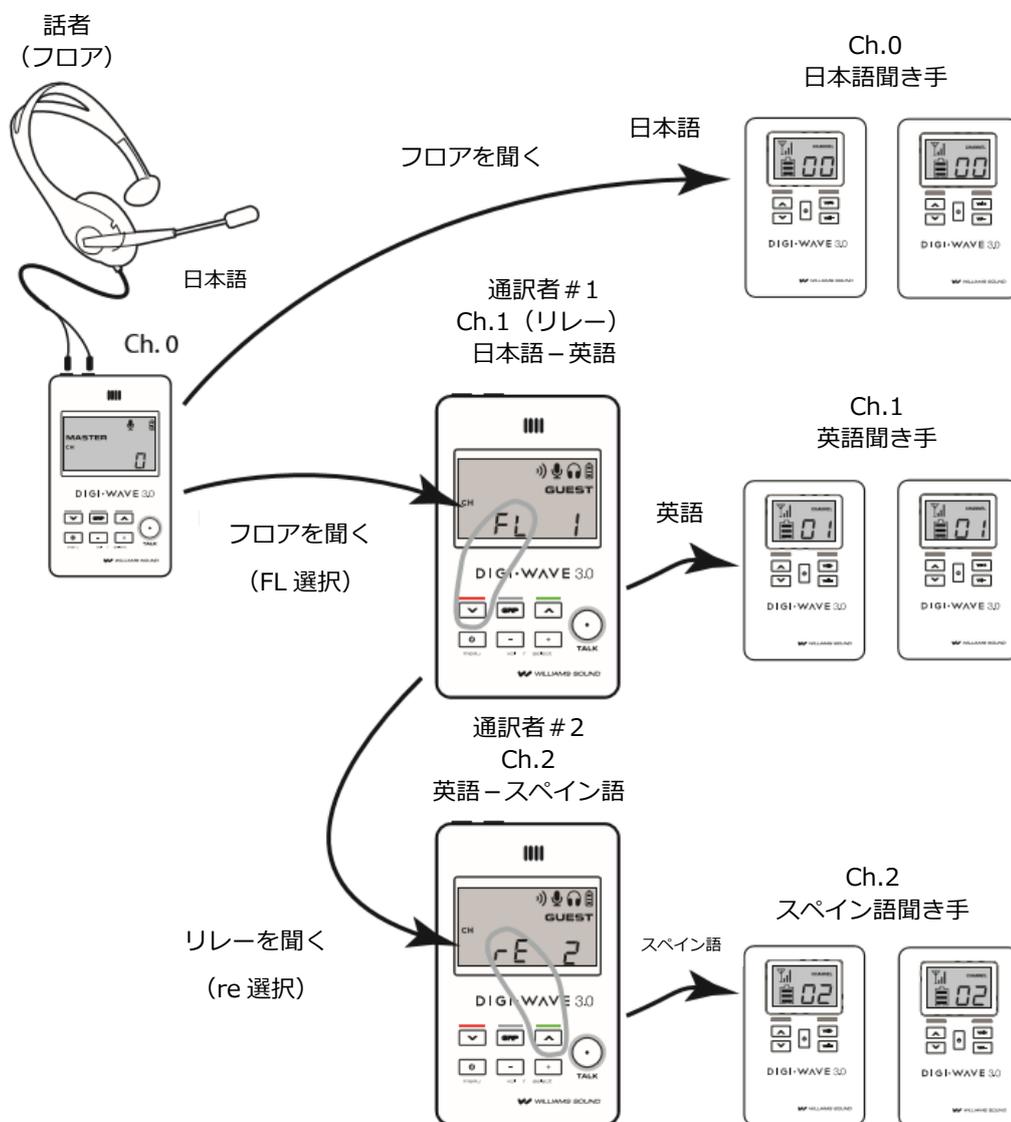


## 構成例 4 : リレーモードでの通訳

### 使い方

リレーモードでの通訳は、同時通訳モードとは若干異なります。このモードでは、通訳者は Ch.0 のフロアと Ch.1 のリレーを素早く切り替えて聞くことができます。リレーモードは、2018 年 1 月以降に購入した DLT300、バージョン F7 以降の製品にのみ機能が搭載されています。

この例では、フロアは日本語を話しています。日本語の聞き手は、Ch.0 でフロアを聞くことができます。通訳者 #1 は「v」ボタンを押してフロアを聞きながら、Ch.1 の聞き手に向けて日本語から英語に通訳します。通訳者 #2 は「^」ボタンを押してリレー（通訳者 #1）を聞きながら、Ch.2 の聞き手に向けて英語からスペイン語に通訳します。



### 1. マスターユニットのプログラミング

用途	1-Way の用途 (会話の流れが一方方向)					2-Way の用途 (双方向会話)		
	1-way Speak Only	1-way Receive/Speak	1-way Repeater	1-way Receive Only	Relay	2-way Intercom	2-way	2-way Receive Only
モード名称	1-way Speak Only	1-way Receive/Speak	1-way Repeater	1-way Receive Only	Relay	2-way Intercom	2-way	2-way Receive Only
主な役割	メインの話者	通訳者	リピーター	聞き手	リレー	最大 6 同時通話 インターカム	最大 4 同時通話 双方向会話	会話の聞き手



1 ボタンを 2 秒間長押しして DLT の電源を入れます。



2 のボタンを同時に 3 秒間長押ししてプログラミングモードにします。



3 現在のモードアイコンが点滅し、ほかの表示が消えます。



4 ボタンを押しスピーカーオンリーモードに変更します。 ボタンを押して次へ進みます。



5 ボタンを押し Master を選びます。(1 台目のユニットのみ) Master はグループあたり 1 台かならず設定する必要があります。 ボタンを押して次へ進みます。



6 GROUP が点滅します。 ボタンを使ってグループ番号を設定し、 ボタンを押して次へ進みます。



7 TIME と「時」が点滅します。 ボタンを使って時刻 (AM/PM あり) を設定し ボタンを押します



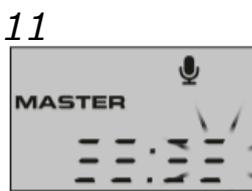
8 TIME と「分」が点滅します。 ボタンを使って時刻を設定します。 ボタンを押して時刻設定を保存し、次の設定に進みます。



9 セキュアコードの 1 桁目が点滅します。 ボタンを押して、1 桁目を調節します。



10 ボタンを押して次の桁に進みます (1 桁目の数字は表示されません)。



11 ステップ 9 と 10 を繰り返して 4 桁すべてを入力します (入力された桁は表示されません)。 ボタンを押します。



12 この場合には選択されている桁がないため、4 つのダッシュが表示されています。 ボタンを押します

13



現在選択されているモードが点灯します。これはプログラミングの最初の画面です。

14



  ボタンを3秒間長押ししてプログラミングモードを終了します。

## 2. ゲストユニットのプログラミング

各ユニットは、送信されるチャンネルに対してプログラムされています。バイリンガルモードとリレーモードを併用することはできないので、これらのユニットではプログラミング中にバイリンガルのオプションを表示されません。

用途	1-Way の用途 (会話の流れが一方方向)					2-Way の用途 (双方向会話)		
	1-way Speak Only	1-way Receive/Speak	1-way Repeater	1-way Receive Only	Relay	2-way Intercom	2-way	2-way Receive Only
モード名称	1-way Speak Only	1-way Receive/Speak	1-way Repeater	1-way Receive Only	Relay	2-way Intercom	2-way	2-way Receive Only
主な役割	メインの話者	通訳者	リピーター	聞き手	リレー	最大 6 同時通話 インターカム	最大 4 同時通話 双方向会話	会話の聞き手

1



ボタンを 2 秒間長押しして DLT の電源を入れます。

2



のボタンを同時に 3 秒間長押ししてプログラミングモードにします。

3



現在のモードアイコンが点滅し、ほかの表示が消えます。

4



ボタンを押してリレーモードに変更します。

5



ボタンを押してこのモードを選択し、次へ進みます。

6



ボタンを押して Guest を選択します。複数の Guest ユニットを設定することができます。  
 ボタンを押します。

7



チャンネルアイコンが点滅します。  
 ボタンを押してチャンネルを選択します。  
それぞれの DLT は固有のものでなければなりません。  
 ボタンを押します。

8



Group アイコンが点滅します。  
 ボタンを押して調節します。  
 ボタンを押します。

9



セキュアコードの 1 桁目が点滅します。  
 ボタンを押して、1 桁目を調節します。  
 ボタンを押します。

10



ボタンを押して次の桁に進みます (1 桁目の数字は表示されません)。

11

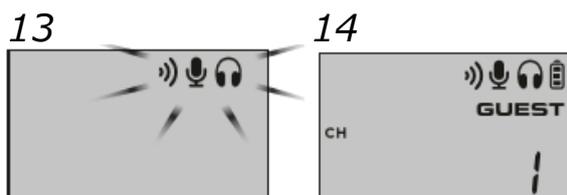


ステップ 9 と 10 を繰り返して 4 桁すべてを入力します (入力された桁は表示されません)。

12



この場合には選択されている桁がないため、4 つのダッシュが表示されています。



13  
現在選択されているモードが点灯します。これはプログラミングの最初の画面です。

14  
ボタンを3秒間長押ししてプログラミングモードを終了します。

3. 設定が完了したユニットは次のような画面になります。



フロアを聞くには ▼ リレーを聞くには ▲ を押します。

## プログラミングと運用について

- リレーモードの通訳では、「バイリンガルモード」はオプションではありません。その他については、プログラミングのステップは同時通訳モードと同じです（バイリンガルモードは、同時通訳モードでのみ利用可能です）。
- Ch.1~14 はすべてリレーモードでプログラムできますが、CH.0（フロア）または Ch.1（リレー）のいずれかを聞くというオプションがあるのは Ch.2~14 のみです。
- Ch.1 は自動的にリレーチャンネルとなります。同時通訳モードと同様に、Ch.1 は自動的に Ch.0 を聞きます。「FL」インジケータと ▼ ボタンの上にある LED が点灯し、DLT がリレーモードでの通訳になっていることを示します。しかし、Ch.1 を送信している DLT には、Ch.1 に切り替えて聞くオプションはありません。
- Ch.0 のフロアは、同時通訳モードでの場合と同じく、「スピークオンリー（メインの話者）」(<mic>記号が使用されています)としてプログラミングされています。
- フロアとしてプログラミングされた DLT はサイドトーンだけを聞くことができ、Ch.1 を聞くことはできません。
- フロア用または通訳者用ユニットは、同時通訳モードと同様に、MASTER としてプログラミングすることができます。
- 「聞き取り専用」の DLT は、通常どおり (<headphone>記号が使用されています) プログラムすることができます。「聞き取り専用」としてプログラムされている DLT は、Ch.0 と Ch.1 を含め、すべてのチャンネルを聞くことができます（送信ではできません）。
- すべての通訳者用ユニットは、リレーモードでプログラミングする必要があるため、同時通訳モードでプログラムされたユニットと組み合わせることはできません。
- 各チャンネルに送信するようにプログラミングすることができるのは DLT のうち 1 つだけです。チャンネル上に複数の DLT がある場合、ユーザーがプログラミングモードを終了すると、LED や CH インジケータ、チャンネル番号が点滅

します。

- 通訳者が Ch.0 (フロア) を聞いているときは、 ボタンの上にある LED が点灯し、「FL」という文字が表示されます。
- 通訳者が Ch.1 (リレー) を聞いているときは、 ボタンの上にある LED が点灯し、「re」の文字が表示されます。
- Ch.1 (リレーチャンネル) の DLT では常に Ch.0 (フロア) を聞いていて、Ch.1 の「re」を聞くことに切り替えることはできません。



### インターカム利用のための 2-WAY インターカムモード設定

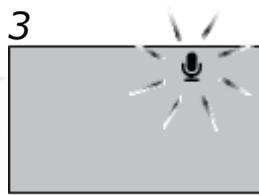
用途	1-Way の用途 (会話の流れが一方方向)					2-Way の用途 (双方向会話)		
	1-way Speak Only	1-way Receive/Speak	1-way Repeater	1-way Receive Only	Relay	2-way Intercom	2-way	2-way Receive Only
モード名称								
主な役割	メインの話者	通訳者	リピーター	聞き手	リレー	最大 6 同時通話インターカム	最大 4 同時通話双方向会話	会話の聞き手



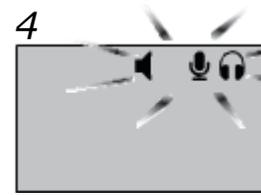
1  
電源ボタンを 2 秒長押しして DLT の電源を入れます。



2  
▼ ▲ のボタンを同時に 3 秒間長押しして設定モードにします。



3  
現在のモードアイコンが点滅し、ほかの表示が消えます。



4  
- + ボタンを押し 2way インターカムモードに変更します。



5  
電源/メニューボタンを押して次へ進みます。



6  
- + ボタンを使って Master1 を選びます。(1 台目のユニットのみ)



7  
Master1 はグループあたり 1 台かならず設定する必要があります。電源ボタンを押して次へ進みます。



8  
ADDRESS が点滅します。- + ボタンを使ってアドレス(0-1023)を設定し、電源ボタンを押し次へ進みます



9  
GROUP が点滅します。- + ボタンを使ってグループ番号を設定し、電源ボタンを押して次へ進みます。



10  
サイドトーンレベルが点滅します。- + ボタンを使ってサイドトーンレベルを調整します。



11  
TIME と「時」が点滅します。- + ボタンを使って時刻 (AM/PM あり) を設定し電源ボタンを押します



12  
TIME と「分」が点滅します。- + ボタンを使って時刻を設定します。



13  
電源ボタンを押して時刻設定を保存し、次の設定に進みます。



14  
セキュアコードの一ケタ目が点滅します。コードを設定しない場合は電源ボタンを押してスキップします。



15  
セキュアコードを入力する場合は、- + ボタンを使って数字を入力し電源ボタンを押して次の桁へ進みます



16  
繰り返し- + ボタンを使って数字を入力し 4 桁すべての数字を設定し、電源ボタンを押します。

17



現在設定されているモードのアイコンが点滅し、設定の最初の項目に戻ります。

18



のボタンを同時に3秒間長押しして設定モードを終了します。

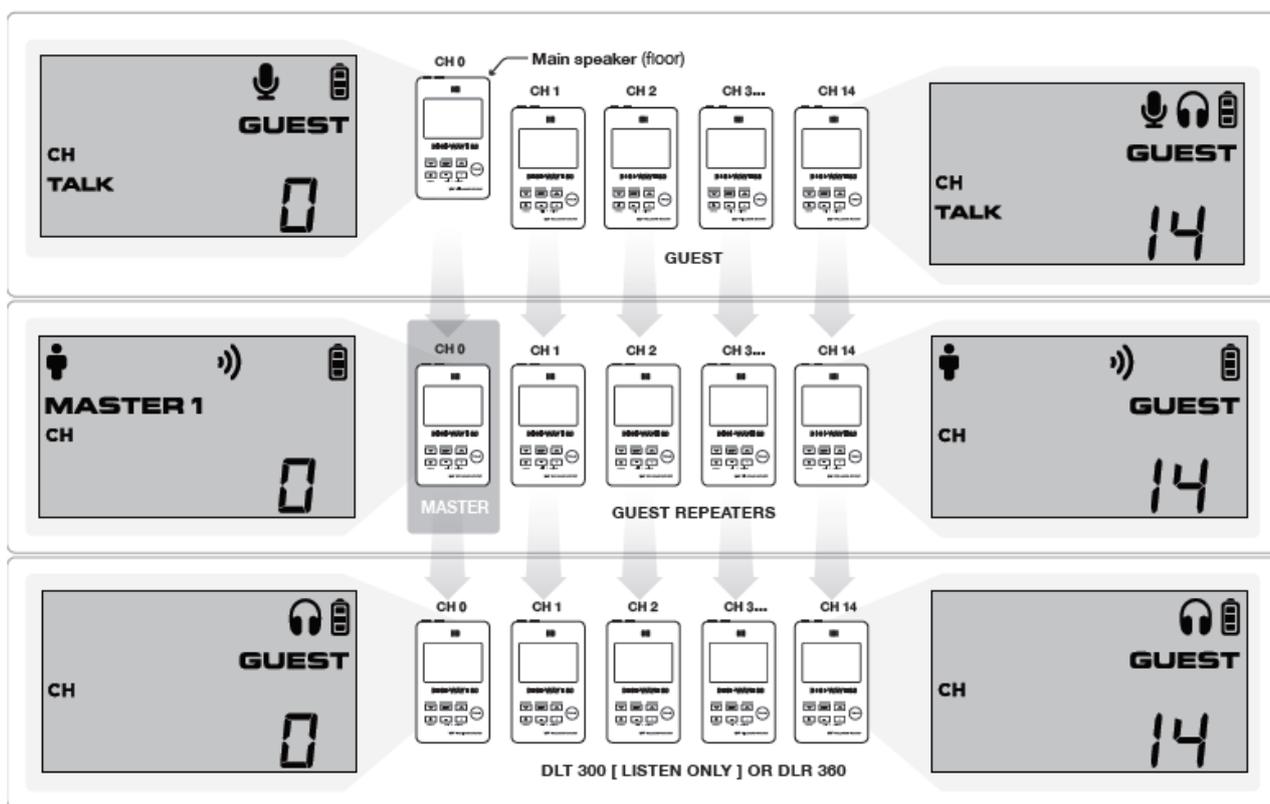
## 構成例 6 : リピーターモード (1-way 用途)

1-way 用途で Digi-wave300 シリーズを使用する際、チャンネル毎に追加の DLT をリピーターとして設定し使用することで、各チャンネルの受信可能範囲を広げることができます。リピーターモードを使用するには、まずはシステムを構成例 2 の同時通訳の手順で設定します。その後、リピーターを以下のように設定します。リピーターモードを使用するとき、リピーターを Master に設定します。そしてほかのユニットはすべてこの Master リピーターにシンクロします。はじめに Master と設定されていたメインの話者（フロア）の DLT は Guest として再設定する必要があります。

すべての 1-way モードの DLT（DLR を使用する場合は DLR も）は同じグループに設定している必要があります。聞き手は各々聞きたい言語に応じたチャンネルを選択します。

以下はリピーターモードを使用するときの図です。メインの話者が使用する DLT はゲストユニットに設定されています。リピーターが Master ユニットに設定されています。

### DLT 300 のフロアと通訳者の図



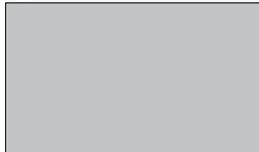
DLT300（受信のみ）及びDLR360は同じグループに設定されている必要があります。聞き手はそれぞれ、自分の聞きたい言語（チャンネル）を選択して聞くことができます。

※リピーターの必要がない場合には、メインの話者（CH0）が Master になります。

### リピーターモードの設定

用途	1-Way の用途 (会話の流れが一方向)					2-Way の用途 (双方向会話)		
	1-way Speak Only	1-way Receive/Speak	1-way Repeater	1-way Receive Only	Relay	2-way Intercom	2-way	2-way Receive Only
モード名称	1-way Speak Only	1-way Receive/Speak	1-way Repeater	1-way Receive Only	Relay	2-way Intercom	2-way	2-way Receive Only
主な役割	メインの話者	通訳者	リピーター	聞き手	リレー	最大 6 同時通話 インターカム	最大 4 同時通話 双方向会話	会話の聞き手

- 1**



電源ボタンを 2 秒長押しして DLT の電源を入れます。
- 2**



▼ ▲ のボタンを同時に 3 秒間長押しして設定モードにします。
- 3**



現在のモードアイコンが点滅し、ほかの表示が消えます。
- 4**



− + ボタンを押しリピーターモードに変更します。電源/メニューボタンを押して次の設定へ進みます。
- 5**



− + を押して Master を選択します。
- 6**



電源/メニューボタンを押して次の設定へ進みます。
- 7**



CH が点滅します。− + ボタンを使ってグループを設定し、電源ボタンを押して次へ進みます。
- 8**



GROUP が点滅します。− + ボタンを使ってグループを設定し、電源ボタンを押して次へ進みます。
- 9**



TIME と「時」が点滅します。− + ボタンを使って時刻 (AM/PM あり) を設定し電源ボタンを押します。
- 10**



TIME と「分」が点滅します。− + ボタンを使って時刻を設定します。
- 11**



セキュアコードの一ケタ目が点滅します。− + ボタンを使って一ケタ目を設定します。
- 12**



電源ボタンを押して次の桁の設定へ進みます。



13  
繰り返し-+ボタンを使って数字を入力し4桁すべての数字を設定し、電源ボタンを押します。

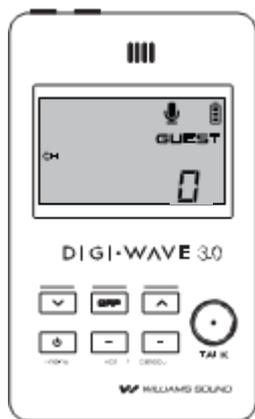


14  
現在設定されているモードのアイコンが点滅し、設定の最初の項目に戻ります。



15  
▼ ▲ のボタンを同時に3秒間長押しして設定モードを終了します。

**メインの話者 (フロア)  
DLT**



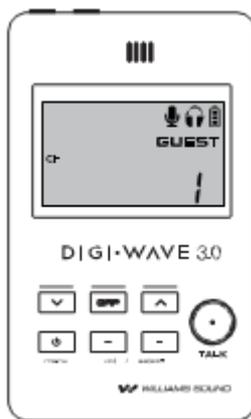
1-way メインの話者モード、GUEST 設定、0-1023 のいずれかのグループ番号に設定されている必要があります。CH0 がメインの話者 (フロア) のユニットです。

**メインの話者 (フロア)  
リピーター-DLT**



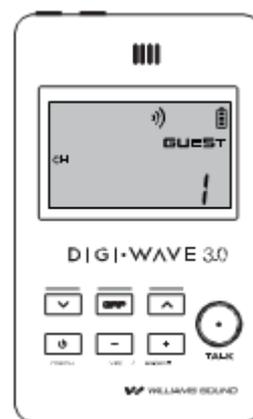
1-way リピーターモード、Master 設定、0-1023 のいずれかのグループ番号、CH0 に設定されている必要があります。他のチャンネルのリピーターは全て GUEST になります。

**通訳者  
DLT**



1-way 通訳者モード、グループ 0-1023 のいずれか、GUEST、CH1 以降のチャンネル番号を設定している必要があります。

**通訳者  
リピーター-DLT**



1-way リピーターモード、GUEST 設定、グループ 0-1023 のいずれか、CH1 以降の対応するチャンネル番号を設定している必要があります。

## DLT300、DLT100 2.0、DLT100 の相違表

機能/説明	DLT300	DLT100 2.0	DLT 100
SLOC	設定がロックされている場合は、電源、音量、トークのみを調整できます。	設定がロックされている場合は、電源、音量、トークのみを調整できます。	設定がロックされている場合は、電源、音量、トーク、トーン、マイクレベル、グループを調整できます。
投票機能	利用不可	利用不可	利用可
GRP ボタン/ABS ボタン	「GRP」のラベル 1-Way モード：機能オフ 2-Way モード：このボタンを押したままにすることで簡単にグループを変更できます。	「GRP」のラベル 1-Way モード：機能オフ 2-Way モード：このボタンを押したままにすることで簡単にグループを変更できます。	「ABS」のラベル 1-Way モード：機能オフ 2-Way モード：マスターユニット上で、投票を有効にするために使用されます。マスター2 ユニットまたはゲストユニットで、投票時に「棄権する」ことができます。
 ボタン/yes "ch+"ボタン	「^」ラベル 1-Way モード：チャンネル上 2-Way モード：グループ上	「^」ラベル 1-Way モード：チャンネル上 2-Way モード：グループ上	「yes」ラベル 1-Way モード：チャンネル上 2-Way モード：グループ上
 ボタン/no "ch-"ボタン	「v」ラベル 1-Way モード：チャンネル下 2-Way モード：グループ下	「v」ラベル 1-Way モード：チャンネル下 2-Way モード：グループ下	「no」ラベル 1-Way モード：チャンネル下 2-Way モード：グループ下
聞き取りのみ (1-Way モード)	利用可能	F-8 ファームウェアでは利用可能 F-7 ファームウェアでは利用不可	利用可能
話者のみ (2-Way モード)	利用可能	F-8 ファームウェアでは利用可能 F-7 ファームウェアでは利用不可	利用可能
グループ番号/時計機能	メイン画面の時計の代わりに「GROUP」アイコンとグループ番号が表示されます。	メイン画面の時計の代わりに「GROUP」アイコンとグループ番号が表示されます。	メイン画面および M1 セットアップ中に時計が有効化されます。
会話タイマー機能	利用不可 メイン画面の会話タイマーの代わりにグループ番号が表示されます。	利用不可 メイン画面の会話タイマーの代わりにグループ番号が表示されます。	利用可能
プッシュ・トゥ・トーク (Ptt) とプッシュ&ラッチ (PnL) 機能	ゲストユニットのみで利用可能	ゲストユニットのみで利用可能	利用不可
マイクゲイン最大レベル	53	53	63
サイドトーン調整	St: 0=off, St: 1=-6 dB, St: 2=-12 dB	St: 0=off, St: 1=-6 dB, St: 2=-12 dB	利用不可
ドック検出/マイク無効化	利用可能 DLT300 はドックと互換性があります。	利用可能 DLT100 2.0 はドックと互換性があります。	利用不可 DLT100 はドックと互換性はありません。
ゲストユニットのオートシャットダウン	5 分 (DLR360 と同様)	5 分 (DLR60 2.0 と同様)	2 分
ライン入カレベル調整	「^」ボタンを押したままにすることで調整可能です。 0~7 までの 8 段階調整可能です。	「^」ボタンを押したままにすることで調整可能です。 0~7 までの 8 段階調整可能です。	利用不可

Digi-Wave Dock との互換性	有り	有り	なし
----------------------	----	----	----

## DLR360、DLR60 2.0、DLR60 の相違表

8/13～11/13 の間に台数限定で DLR60 が製造され、販売されました。ユニットの前面に「Digi・WAVE」と表示されている場合は、DLR60 です。「DIGI・WAVE 2.0」と表示されている場合は、DLR60 2.0（ほとんどのユニットがこれです）です。「DIGI-WAVE 3.0」と表示されている場合は、DLR 360 です。

機能/説明	DLR360	DLR60 2.0	DLR60
グループを変える	メニューから、もしくはクイックグループチェンジ	メニューから、もしくはクイックグループチェンジ	メニューからのみ
 ボタン/ch+ボタン	「^」ラベル 1-Way モード：チャンネル 上 2-Way モード：グループ 上	「^」ラベル 1-Way モード：チャンネル 上 2-Way モード：グループ 上	「ch+」ラベル 1-Way モード：チャンネル 上
 ボタン/ch-ボタン	「v」ラベル 1-Way モード：チャンネル 下 2-Way モード：グループ 下	「v」ラベル 1-Way モード：チャンネル 下 2-Way モード：グループ 下	「ch-」ラベル 1-Way モード：チャンネル 下
ドック検出/マイク無効化	利用可能 DLT360 はドックと互換性があります。	利用可能 DLT60 2.0 はドックと互換性があります。	利用不可 DLT60 はドックと互換性はありません。
マスターユニットに同期されていないゲストユニットのオートシャットダウン	5分 (DLT100 2.0 と同様)	5分 (DLT100 2.0 と同様)	2分
Digi-Wave Dock との互換性	有り	有り	なし

## DLT100、DLT100 2.0、DLT300 のファームウェアバージョンの相違表

Digiwave 2.0 のリリース直前には、DLT 100 ユニットはファームウェアバージョン F-6 で動作していました。DLT 100 2.0 のリリースでは、すべてのユニットが新しいファームウェアバージョン 7 で出荷されました。バージョン 8 は 2014 年にリリースされました。DLT 300 は、新しいプラットフォームで F-1 としてリリースされました。それ以前のユニットとは互換性がありません。DLT の電源が ON の状態で、「F-X」が表示されるまで、電源/メニューキーを繰り返し押して、「X」が 6,7,8 のいずれかになるようにして、ファームウェアのバージョンを確認します (DLT 300 は「1」になります)。使用可能な機能は、下の図に示されています。空白の場合、この機能は使用できません。この図は、機能の違いのみをカバーしています。すべての DLT に共通する機能は記載されていません。

機能/説明	F-6(DLT100)	F-7(DLT100 2.0)	F-8(DLT100 2.0)	F-1(DLT300)
クイックグループチェンジ		✓	✓	✓
投票機能	✓			
受信専用(1-Way モード)	✓		✓	✓
話者専用(2-Way モード)	✓		✓	✓
メイン画面への時計・グループの表示	時計	グループ	時計	オプションで時計 またはグループ
会話タイマー	✓			
オートシャットダウン	2分	5分	5分	5分

プッシュ・トゥ・トーク (Ptt) と プッシュ&ラッチ (PnL)		✓ (ゲストユニット のみ)	✓ (ゲストユニット のみ)	✓ (ゲストユニット のみ)
マイクゲインのデフォルトレベル	36	33	33	33
マイクゲインの最大レベル	63	53	53	53
Digi-Wave Dock との互換性		✓	✓	✓
2 台までの有効なマイク (ツアーガイドモード)	✓	✓	✓	2 台以上可能
4 台までの有効なマイク (ツアーガイドモード)				✓
6 台までの有効なマイク (インターコムモード)				✓

## 仕様

### DLT 300 トランシーバー

寸法	103.3 x 61.8 x 11.3 ミリメートル (4.07 x 2.43 x 0.44 インチ) (H x W x D)
重さ	82 g (2.9 oz) 内蔵バッテリー含む。
色	前面：ブラック、背面：シルバー
ケースの素材	ブラック ABS プラスチック
バッテリーのタイプ	内蔵リチウムポリマーバッテリー、2000mAh
連続使用時間	一度の満充電で最大 14 時間の連続通話 電流消費レンジ：39mA@アイドル時~94mA w/1Ch 送信・3Ch 受信時
パワーセーブ	オートスリープモード、5 分間他の互換デバイスからの電波信号がないとき
充電時間と充電器	5 時間。インターナショナルアダプター付き TFP 045、及びケーブル付属
充電用オプション機器	1 台充電用ケーブル TFP 045 の他、12 台用充電器 CHG 1012 (別売)
同時使用できる チャンネル数/グループ数 /発言者数	最大同時 15 チャンネル(0-14)(1-way 用途) 最大同時 4 グループ(2way 用途) グループあたり最大 4 人の同時発言可能(2way モード時) グループあたり最大 6 人の同時発言可能(2-way インターカムモード時)
電波周波数帯域	2.4 GHz (ISM バンド); 2402 - 2476 MHz FHSS
音声周波数応答 (-3dB Knee Level)	1-way 用途の場合：140 - 11.5 KHz 2-way 用途の場合：140 - 7.6 KHz
SN 比	74 dB (A ウェイト, 最大出力)
THD	0.33 %
マイクロフォン入力	内蔵マイクロフォン(MIC ジャックに接続されているときは無効) と 3.5 mm フォン端子 (チップ/スリーブ)エレクトレットマイクロフォンバイアス、63dB レンジでゲインの調整可能
ヘッドホン出力	3.5 mm フォンジャック：33Ω load
音声出力	Max SSPL 90 111.8dB (EAR 013), 116.8dB (EAR 041) 内蔵スピーカー(ヘッドホンジャック使用時は無効) <20mW @ 10% THD/RL = 33Ω
最大使用距離 (M1 からの距離)	屋外の場合：最大 200 フィート (約 60 メートル)、屋外の場合最大 300 フィート (約 90 メートル)、見通しの良い環境の場合。環境によって電波到達距離は短くなります。
変調方式	FSK

<b>RF 出力</b>	14 dBm Typical
<b>セキュリティ</b>	87 bit 暗号化通信、セキュリティキーコード機能、設定ロック機能(SLOC)
<b>操作できる項目</b>	フロントパネルからのボリュームアップ/ダウン、グループ選択、メニューアクセス及び選択、時刻設定、マイクのオン/オフ、電源のオン/オフ、トーンコントロール、SLOC、セキュアキーアクセス。リアパネルにシステムリセットボタンがあります。
<b>出力</b>	3.5 mm ステレオ/モノラルヘッドホンジャック、30 ピン充電ジャックおよび Dock へのオーディオ出力
<b>サイドトーン</b>	ボリューム-12dB、トーンのバリエーション [ST:0 = Off, ST:1 = -6 dB, ST:2 = -12 dB]
<b>インジケーター</b>	LCD (グループ、チャンネル、ボリュームレベル、バッテリーステータス、モード、トークボタンを押している人の数)
<b>LED</b>	充電の状況を示す LED、およびトーク有効時トークボタン周りの赤色 LED が点灯
<b>ドッキングコネクタ</b>	30 ピンコネクタ、充電及び音声の入出力用
<b>互換性のあるレシーバー</b>	DLR 360 のみ
<b>認証</b>	FCC、Industry Canada、CE、RoHS、WEEE、RCM、Anatel、日本国電波法工事設計認証
<b>製品保証</b>	本体に対して2年間、内蔵バッテリーに対して6か月間

※仕様およびデザインは予告なく変更になることがあります。

## DLR 360 レシーバー

<b>寸法</b>	60 x 90 x 16 ミリメートル (2.36 x 3.54 x 0.63 インチ) (W x H x D)
<b>重さ</b>	47g (1.7oz) 電池含まず
<b>Frequency Band</b>	2.4 GHz (ISM バンド)
<b>変調方式</b>	FSK
<b>マルチチャンネル</b>	最大 15 同時チャンネル (1-way モード)
<b>ケースの素材</b>	ブラック ABS プラスチック
<b>電池</b>	単四型アルカリ乾電池、もしくはニッケル水素充電電池
<b>連続使用時間</b>	単四型アルカリ乾電池 (BAT 010-2): 最大 24 時間 ニッケル水素充電電池 (BAT 022-2): 最大 18 時間
<b>パワーセーブ</b>	オートスリープモード、5 分間他の互換デバイスからの電波信号がないとき
<b>音声周波数応答 (-3dB knee level)</b>	カンファレンスモード: 140 - 11.5 KHz インターカムモード: 140 - 7.6 KHz
<b>SN 比</b>	65 dB (A ウェイト)
<b>THD</b>	0.1% (typical)
<b>アンテナ</b>	内蔵
<b>ヘッドホンオーディオ出力</b>	ヘッドホン、イヤープース用 3.5 mm ステレオジャック、モノラル出力付き 27mW maximum @33Ω mono 内蔵スピーカー(ヘッドホンジャック使用時は無効)
<b>操作できる項目</b>	電源、ボリュームアップ/ダウン、チャンネル変更、設定、バッテリータイプ (バッテリーケース内)
<b>ディスプレイ</b>	LCD (充電残量、RSSI、グループ/チャンネル番号)
<b>インジケーター</b>	赤色 LED - 充電中は点滅 緑色 LED - 充電完了後点灯
<b>ドッキングコネクタ</b>	30-pin iPod 式の充電及びオーディオ出力
<b>互換性のあるトランシーバー</b>	DLT 300 のみ
<b>環境温度</b>	32° - 122°F (0° to 50°C)

<b>充電用オプション機器</b>	2-bay CHG 102, 12-bay CHG 1012, TFP 045
<b>アクセサリ</b>	シリコンカバー、ネックストラップ、リストストラップ
<b>認証</b>	FCC, Industry Canada, RoHS, CE, WEEE, RCM, Anatel.
<b>製品保証</b>	本体 2 年間、アクセサリ 90 日間

※仕様およびデザインは予告なく変更になることがあります。

## 検査と認証

これらのユニットは独立した認証団体であるブラジルの Anatel 社によって検査され認証を受けています。

"Este produto está homologado pela ANATEL de acordo com os procedimentos regulamentados pela Resolução 242/2000, e atende aos requisitos técnicos aplicados".

Para maiores informações, consulte o site da ANATEL [www.anatel.gov.br](http://www.anatel.gov.br)



Este equipamento opera em caráter secundário, isto é, não tem direito a proteção contra interferência prejudicial, mesmo de estações do mesmo tipo, e não pode causar interferência a sistemas operando em caráter primário.

## トラブルシューティング

問題	原因	対処法
電源が入らない	バッテリーが故障しています	バッテリーを交換してください
自動的に電源がオフになってしまう	Master デバイスが見つかりませんでした	Master ユニットの電源を入れてください
電源がオフにならない	プログラムの問題	DLT ユニットの場合は背面のリセットボタンを押してください
ヘッドホンから音が聞こえない	ヘッドホンが正しく接続されていない	ヘッドホンとの接続を確認してください
	Master ユニットがオフになっている	Master ユニットが正しく設定され、オンになっていることを確認してください
	グループ番号の設定が違っている	同じグループ番号を一緒に使用するすべてのユニットに設定してください
	電波の到達範囲を超えています	屋外の場合は約 60 メートル、屋内の場合は約 90 メートルの範囲まで Master に近づいてください
	2台以上の Master(Master1)がグループ内に存在している	グループあたり 1台の Master(Master1)を設定してください
	電波をさえぎる障害物がある	障害物を避けてください
参加者チェックのエラー	グループ内でアドレスが重複しています	重複しないアドレスを設定してください
	グループ内でアドレスが重複しています	重複しないアドレスを設定してください

受信チャンネルが選択できない	送信チャンネルが重複しています	重複しない送信チャンネルを設定してください
レシーバーでグループ/チャンネルが選択できない	レシーバーが最後に 1-way モードの DLT に接続され、DLT がもうそのチャンネル/グループ番号で送信を行っていない	DLR を DLT の新しいグループに設定するか、DLT を DLR のチャンネル/グループに変更する
	レシーバーがロックされています (“SL” と画面に表示されます)	<a href="#">Digi-Wave システムの設定 : オプション設定</a> を参照しロックを解除してください
通訳音声を送信できない	同時通訳モードに正しく設定されていない	同時通訳モードに設定してください
	2 台以上の Master が存在しています	Master は 1 台だけ設定してください
話し手の音声が聞こえない	マイクの感度が低すぎます	お使いのマイクに応じて、マイクの感度を設定してください (例 : Mic044-2p は 33 程度、Mic068 は 17 程度)
	Master ユニットの電源がオフになっています	Master をオンにしてください。Master の充電残量がない場合は充電してください
マイクロフォンとヘッドホンが動作しない	マイクロフォンとヘッドホンの接続が逆になっています	アイコンを確認し正しく接続してください
TALK ボタンが点滅している	TALK ボタンを長押ししたために、トークミュート (ロック) 状態になっています	Master の TALK ボタンを再度長押しし、点滅を消してください
DLT が Master1 に接続されていません	電波の到達範囲を超えています	ユニットをもっと Master に近づけてください
	Master がオフになっています	Master ユニットの電源をオンにしてください
	4桁のセキュアコードの入力が必要か、あるいは入力されたコードが違っている	Master と同じセキュアコードを入力してください
	グループ番号が異なっている	Master と同じグループ番号を設定してください
	グループ番号が 100 以上である (DLR)	すべてのユニットのグループ番号を 100 以下に設定してください
“Guest”が点滅している	ゲストユニットが Master を見つけられていません	Master を 1 台必ず設定する必要があります。グループ番号が正しいことも確認してください
日時が正しくない	Master に設定されている日時が正しくありません (すべてのユニットの日は Master と同期しています)	Master の日時設定を修正してください

## よくあるご質問

### システムの使用可能な範囲 (距離) はどのくらいですか？

屋内でおおよそ 90 メートル、屋外でおおよそ 60 メートルです (見通しの良い環境の場合)。この距離は遮蔽物があると短くなり、また他の電波の影響がある場合にも変わります。

### 同一空間でいくつの同時使用システムが使用できますか？

2-way モード時で 4 システム、同時通訳モードで 1 システムが使用可能です。

### 同時に使用できる DLR の数の制限は？

電波到達範囲内であれば台数の制限はありません。

### どのくらい連続稼働できますか？

DLT：一度の充電で最大 14 時間の連続通話が可能です。

DLR：単四型アルカリ乾電池 2 本で使用した場合最大 24 時間、単四型ニッケル水素充電電池で使用した場合最大 18 時間です。

## FCC ステートメント

### 連邦通信委員会からの電波干渉に関する声明 (Federal Communication Commission Interference Statement)

この機器は FCC 規定 Part 15 におけるクラス B デジタル機器の条件に準拠することが試験により確認されています。この条件は住居環境に設置した状態で有害な干渉から適切に保護されるよう規定されています。

この機器は高周波エネルギーを生成、使用、及び放射し、説明書に従って設置及び使用されない場合、無線通信に対して有害な干渉が発生する場合があります。しかし、特定の設置状況においても、そのような干渉が発生しないことを保証するものではありません。この機器がラジオやテレビの受信に有害な干渉を発生させる場合（この機器の電源をオン・オフすることで確認が可能です）、以下のいずれかにより干渉の解決を試みることを推奨します。

- 受信アンテナの方向や設置場所を変更します。
- 本機器と受信器の距離を大きくします。
- 受信器が接続されているコンセントと異なる回路のコンセントに本機器を接続します。
- ディーラーまたはラジオ/テレビの専門技術者に相談します。

### FCC による警告

継続的な機器の準拠を確実なものにするため、規定準拠の責務を負う当事者からの明示的な許可なき変更や改造が実施された場合、本機器を運用する権利をユーザーは失うことがあります。（例 - コンピューターまたは周辺機器に接続する場合はシールド・インタフェース・ケーブルのみ使用可）

### FCC による電波照射に関する声明

本機器は管理されていない環境下における FCC の RF 照射限界規制に準拠しています。本機器はハンドヘルド・デバイスであり、安全性確保のためアンテナから最低 5mm 以上近づけないよう推奨します。本送信器は他のアンテナや送信器と一緒に場所に設置したり、一緒に使用しないようにしてください。

### カナダ産業省の声明

本機器はカナダ産業省のライセンス免除 RSS 基準に適合しています。以下の 2 つの条件に従って動作します：

- (1) 本機器が電波干渉を発生させることはない、且つ
- (2) 本機器は、誤動作を発生させる可能性のある電波干渉を含む、あらゆる電波干渉を許容することはない。

This device complies with Industry Canada licence-exempt RSS standard(s). Operation is subject to the following two conditions:

- (1) this device may not cause interference, and
- (2) this device must not accept any interference, including any interference that may cause undesired operation of the device.

Le present appareil est conforme aux CNR d'Industrie Canada applicables aux appareils radio exempts de licence. L'exploitation

est autorisee aux deux conditions suivantes :

(1) l'appareil ne doit pas produire de brouillage, et

(2) l'utilisateur de l'appareil doit accepter tout brouillage radioelectrique subi, meme si le brouillage est susceptible d'en

compromettre le fonctionnement.

最新の適合宣言と最新の認証リストについては、Williams Sound のウェブサイトをご覧ください。アドレスは次の通りです。<http://www.williamssound.com>.

## 2 年保証

Williams Sound 社の製品は、長年にわたる信頼のサービスを提供するため慎重に管理された条件の下で開発・設計・製造が行われています。

Williams Sound 社は DLT 300 と DLR 360 について、製品の購入日から 2 年間は、通常の使用条件の下でその材料や加工に欠陥がないことを保証します。

この保証は最初の製品購入者に適用されるだけでなく、転売した場合にもその購入者に引き継がれます。

マイク、イヤホン、ヘッドホン、バッテリー、充電器、ケーブル、キャリーケースならびに他のアクセサリ品には 90 日間の保証が付きます。

Williams Sound 社は製品が使用される条件を管理する立場にありません。そのため明示的、黙示的を問わず DLT 300 と DLR 360 に関して上記以外の一切の保証はありません。例えば、商品性や機器の使用の適切性に関する黙示的保証や、いかなる目的での機器使用も適用法令や規制に準拠することの保証がこれに当たりますがこれに限定されるものではありません。

Williams Sound 社は、製品のいかなる使用、欠陥、故障や誤動作によって生じた一切の医療費や直接的、偶発的または間接的損害に関して個人または組織に対して責任を負わないものとします。こうした損害に対する賠償請求の根拠が保証、契約、不法行為か否かを問わず、製品の欠陥、故障や誤動作のための唯一の救済方法は、代替製品の提供とします。

何人も Williams Sound 社に DLT 300 と DLR 360 に関する一切の保証を強制する権限はありません。不正な修理や改造は保証対象外です。誤使用による損害や工場の正規サービス技術者以外による修理や改造は本保証の対象外です。製品の通常の摩耗や損傷、もしくは製造上の欠陥による損害以外の物理的損害については保証対象外です。

Williams Sound 社は、機器が意図した通りに動作しないことによる間接的な損害の責任は負いません。

Williams Sound 社は、販売したいいかなる機器の使用方法に関しても一切の責任や義務を負わないものとします。

保証サービスの見積もりのために製品を取り外して輸送する費用や保証に基づく代替品の取付けにかかる費用の弁済は本保証の対象外です。

上述の除外および制限は、適用法令の強制規定に反することを意図したものではありませんし、そう解釈されるべきものでもありません。本保証の免責条項の一部または用語が、違法、執行不能、または管轄裁判所により適用される法律と矛盾する場合、本保証の免責条項の他の部分の有効性には影響せず、全ての権利及び義務は本保証の免責条項に無効と見なされる特定の部分や用語が含まれていなかった場合のように解釈及び執行されるものとします。保証条件はミネソタ州の法律に準拠します。

製品の価格及び仕様は予告なく変更される可能性があります。

\*保証規定の全文は以下を参照下さい。 [www.williamssound.com/warranty-statement](http://www.williamssound.com/warranty-statement)

注意：Williams Sound 社の製品は極端な温度や湿度、化学的環境での使用を想定していません。製品に塩素や塩水、人

間の汗などの化学物質が入ると、回路に損傷を与える可能性があります。このような原因による損害は製品保証の対象外です。

機器に障害が発生した場合は、購入された代理店へご連絡ください。もしくは、日本国内代理店 株式会社メディアプラス (03-3237-9003) <http://www.mediaplus.co.jp> へご連絡ください。

米国におけるご連絡は、無料のカスタマーアシスタンス (1-800-843-3544 (U.S.A.) または +1 952 943 2252) までお電話下さい。機器を修理に出す必要がある場合は、カスタマーサービス担当者から返品確認番号 (RA) と発送指示書を発行します。

当マニュアルは Williams Sound 社の英語マニュアル (2017 年 11 月時点) をもとにメディアプラスが制作したものです。英語を含む各言語のマニュアル、およびその他の各種資料は Williams Sound 社のウェブサイトをご覧ください。

当マニュアルに関するお問合せ、および製品の購入やサポートについてのご要望は下記へお問合せください。

**Williams Sound 国内代理店**

**株式会社メディアプラス**

102-0072 東京都千代田区飯田橋 3-11-6 清水書院サービス第 2 ビル 7F

電話:03-3237-9003 FAX:03-3237-9005

<http://www.mediaplus.co.jp>